

第39回定期演奏会へ向けて

[冒頭へ](#)

[月初の練習日に移動](#)

2021年10月10日（日）第39回定期演奏会

記事

同仁教会礼拝堂にて、予定通り定刻に演奏会を開催。
無事に演奏を終えることが出来ました。

ご来場いただいた皆様、どうもありがとうございました。

辛抱強くご指導くださった先生、そしてオケの先生方、スタッフの皆様、本当にありがとうございました。心より御礼申し上げます。

備考

[冒頭へ](#)

[月初の練習日に移動](#)

2021年10月9日（土）

練習箇所

全曲

記事

オケ合わせ（2回目）

[冒頭へ](#)

[月初の練習日に移動](#)

2021年10月6日（水）

練習箇所

全曲

記事

今日は1回目のオケ合わせでした。

録音がUPされていますので、先生からの注意点など、各自チェックをお願いいたします。

冒頭へ

月初の練習日に移動

2021年9月29日（水）

練習箇所

Carl Philipp Emanuel Bach
Zwei Psalmen (Wq 205) (Wq 206)
Vier Motetten (Wq 208)

Johann Sebastian Bach
・ Lobet den Herrn (BWV230)

記事

全体発声：46分

<内容>

★Der2.Psalm (Wq205)

- ・発音が平板にならないように。
- ・24小節："Könige"の"ö"は長母音なので狭くする。
- ・65小節（ソプラノ）："i"の母音は開け気味で。
- ・205小節2拍目裏：ハーモニーに注目する。

★Der4.Psalm (Wq206)

- ・最後の音は拍通りに切る。2拍目は通底のgの音だけが残ります。

★Vier Motetten (Wq 208)

Trost der Erlösung

- ・言葉を付けにくいところは、各自チェックしておきましょう。

Der Kampf der Tugend

- ・フレーズの終わりがぶっきらぼうにならないように。

Bitten

- ・男声だけのところ：フォルテは表情や雰囲気でもフォルテの感じを出す。
- ・16小節（男声）：2拍目は急がず間を作って明るく入る。
- ・94～95小節："Demut"、"Mut"の"mu"がウムラウト「ミュー」にならないように。

Die Menschenliebe Jesu

- ・1回通しました。

★Lobet den Herrn (BWV230)

- ・63小節～："über"の語尾が「バー」とならないように。狭くする。
- ・76小節～："Ewigkeit"で「カ」と言った時に、力が入ってピッチが落ちやすいので注意しましょう。
- ・79小節（テノール）：4拍目、声が重くならないように。

・99小節～："alleluya"の最初の「ア」の母音で声がばらけやすいので注意しましょう。

備考

♪来週は18時10分から発声練習、19時からオケ合わせです。

冒頭へ

月初の練習日に移動

2021年9月23日（木・祝）

練習箇所

Johann Christoph Friedrich Bach
・Wachet auf,ruft uns die Stimme
Johann Sebastian Bach
・Lobet den Herrn (BWV230)

記事

新宿文化センター第1会議室にて13:10～16:50まで臨時練習を行いました。
全体発声：56分

<内容>

※パート記載ないところは全員への注意事項です。

★Wachet auf,ruft uns die Stimme（第3楽章 Choral(365～410小節)）

- ・フェルマータの扱い：402小節のフェルマータは二分音符ですが止まります。そのほかは少しゆっくりしたりはしますが、基本的には音価に則したフェルマータです。指揮を見て合わせましょう。
- ・365～359小節：「ここからあの有名なコラールが始まるぞ」という気持ちで朗々と歌い出します。"sei"と"gesungen"の"-su-"を大切に歌いましょう。この[u]の発音がつぶれないように注意。深い[u]にしてください。
- ・359小節：1拍目のハーモニーを確認しました。テノールは前のAとは切り離してこのハーモニーに入ってください。語尾を美しいフレーズに纏めるつもりで丁寧に歌いましょう。2拍目の"mit"は軽く歌い出します。子音の"m"からハーモニーに入るように意識してピッチを保ちましょう。バスは1オクターヴ上がるので注意が必要です。
- ・371～374小節（アルト）：張りのある声でしっかりフレーズを作りましょう。特に372小節2拍目のCの音がきれいに響き、次の小節でソプラノがDに下りた時にぶつかる響きが鳴っていますように。そのためには"-en"までしっかりと。"n"を飲み込まないようにすることも大切です。385～388小節も同様です。
- ・378小節："schoen（美しい）"言葉の意味通り、音域は低めですが、取めず最後までしっかり鳴らしましょう。
- ・379～383小節：379小節"zwoelf"、382小節"Pforten"などの二重子音はもっと前に出し、皆で揃えましょう。380小節の上3声は和音が透明になるよう意識してください。
- ・385小節：1拍目"Stadt"の後にセミコロンがついています。ここで明確にフレーズを分けましょう。次の"wir"は改めてしゃべり直すイメージで。
- ・386～388小節：385小節から始まるフレーズは392小節まで続きます。下降音形になってもエネルギーはキープしてください。
- ・390小節："hoch"は長母音です。暗めの発音をお願いします。
- ・392小節："Thron（玉座）"これも大切な言葉です。しっかりと歌い切りましょう。
- ・393～402小節：ここが1つの塊です。400小節からの"solche Freude."ここに向かっていきます。この場所を『震えるような感動をもって』歌いたい。そのために393小節からは緊張感をもって、それまでとは口調を変えて歌いましょう。"Aug（目）"、"Ohr（耳）"はふくらみをつけて歌います。フェルマータの語尾も揃えましょう。
- ・398小節（アルト）前の小節からのFはしっかり伸ばし、ソプラノのGとぶつけます。その後の"je"にアクセントをつけて目立たせてください。

- ・399小節（男声）：全体の音域が低いのでバランスが悪くなります。ハーモニーも崩れますので女声に合わせて歌ってください。
- ・402小節：ここからは次のAllegroに向かって前に進みます。喜び勇んで歌う感じですが、指揮を見て遅れないようにお願いします。
- ・405小節（アルト）：2拍目裏の"i"は改めてはっきり出てください。

★Wachet auf,ruft uns die Stimme（第1楽章）

- ・アルトにスポットで歌いこんでもらいたい場所を示していただき何度か練習しました。特に43～48小節、51～56小節、73～74小節の強拍にアクセントを置いて、張りのある声で歌うと良いと思います。

★Wachet auf,ruft uns die Stimme（第2楽章）

- ・特に男声向けに180小節からの"das Herz tut ihr fuer"の歌い方を復習しました。ポイントは"Herz"と"tut"をきちんと分けること。"Herz"は短く、でも"tut"の入りは前のめりにならない。且つ"tut"は長めに歌うことを意識します。[u]の母音が浅くならないように注意してください。
- ・195小節（テノール）：たまに走ってしまい、縦が揃わなくなるので注意してください。
- ・286～288小節："Hosianna"はたっぷりと歌いましょう。この[o]は長母音ですので口をすぼめて発音してください。
- ・312小節、317小節："halten（催す）"の言葉に意味を持たせましょう。特に317小節の方は小節線を跨いで伸びています。ふくらみをつけてみてください。

★Wachet auf,ruft uns die Stimme（第3楽章）

- ・326～331小節：3回の"Gloria"について段階的に盛り上がっていきましょう。最後はゴージャスな雰囲気の影響がするようにお願いします。但し、最初弱々しく入るのではなく、ビシッと決めてください。その後、332小節からはそのゴージャスな響きを引き継いで歌っていきます。
- ・336小節：Adagio→Moderatoの変化を明示的につけたいです。イメージとしてはこの前に二重線があるくらいガラッと変わります。鍵は3拍目裏の"sei"です。リズムにのっていきましょう。
(Choralは上述参照)
- ・426小節（アルト）：1～2拍目のG-A-Bの音が曖昧にならないように注意。425小節のフレーズが始まる場所でブレスをしっかりと取って歌いますが、もっと前の423小節2拍目から準備して426小節を意識して歌って行ってください。
- ・433小節（バス）：4拍目からの"sind"4つの八分音符が大切です。立派に気迫をもって先導してください。
- ・436, 437小節：語尾の切り方を揃えましょう。指揮を見ていればわかります。残らないように注意してください。

★Lobet den Herrn (BWV230)

本番想定テンポで歌って見ましたが、全体的についていけない感じがありました。個別に幾つかご注意ありましたが記載省略します。各自再度楽譜を見直して、指揮についていかれるように練習しておいてください。

今回は最後の合唱練習です。Lobet den Herrnと、C.P.E.BachのVier Motettenも時間を取っていただきます。

備考

♪オケ合わせおよび当日の注意事項について説明しました。各自ご確認の上、不明点があれば事務局までお願いします。

[冒頭へ](#)

[月初の練習日に移動](#)

2021年9月22日（水）

練習箇所

Johann Christoph Friedrich Bach
・ Wachet auf, ruft uns die Stimme

記事

全体発声：47分

<内容>

・ 2楽章と3楽章を練習しました。

★2楽章

- ・ 最初の歌い出し（男声）：軽い声で。なおかつレガートで。
- ・ フレーズの終わりは、スッと通過せず集中（注意）して歌いましょう。（146～7小節）、（154～5）、（179～80）、（189～90）
- ・ 156小節（男声）：オクターブを決めましょう。また、レガートで歌う。
- ・ 178小節（ソプラノ）：3連音符の前は一瞬無くなってもいい。そして3連音符は極力省エネで。
- ・ 181小節～："tut"の"u"が浅くならないように。
- ・ 210小節（バス）：低いaに力点を置かず、高いaに力点を置く。
- ・ 216小節：1拍目をしっかり保つ。"auf"の"f"が拍から飛び出ても構いません。
- ・ 249小節～（テノール）：8分音符上の言葉が細切れにならないように。例えば"r"を巻かずに発音する。
- ・ 312小節（アルト）：ソプラノとの3度を意識する。
- ・ 312小節："saal"の"l"を揃える。

★3楽章

- ・ "gesungen"の"u"は広い母音を意識して作り直す。（直前の子音"s"は口の中が狭くなるため）
- ・ 330小節（下3声）：4拍目裏のソプラノを聞く。
- ・ 336小節：Moderatoのテンポ変化をはっきりさせる。その鍵は3拍目の8分音符を正確に通過することです。
- ・ 346小節（バス）：4拍目の輪郭をはっきりするように。365小節も同様です。
- ・ 359小節～（ソプラノ・テノール）：高いgの前で歌い直す。掛け合い（ずれた波）を表現します。

備考

 [冒頭へ](#)

月初の練習日に移動

2021年9月15日（水）

練習箇所

Johann Christoph Friedrich Bach
・ Wachet auf, ruft uns die Stimme

記事

全体発声：39分

<内容>

徐々に本番仕様のテンポで練習をしています。指揮が見れるようにならないとついていけないので、楽譜から少しでも目を離せるよう各自復習をお願いします。

★Wachet auf, ruft uns die Stimme (第1楽章)

- ・54～56小節 (アルト) : 声を揃えられるよう何度か練習しました。ポイントは以下の通り。
- ①54小節4拍目Es。第6のポジションを意識して綺麗に跳躍してください。裏拍の"-chet"は母音がつぶれ過ぎないように注意。
- ②55小節2拍目裏B。半音ですがしっかり上がります。母音のエになり過ぎると下がる傾向があるのであまり変えないように意識してみてください。次の"auf"は頭に[h]がつかないようにしましょう。
- ③56小節1拍目。最後まで気を抜かず、だれ下がらないよう支えをしっかりお願いします。
- ・67小節 (下3声) : "Mitternacht"の歌い方。最初の[i]母音が荒っぽくならないように。4拍目"-ter-"は母音化しますが「ター」にはなりません。曖昧母音です。[r]を少し巻くくらいがちょうど良いかも知れません。"-nacht"で[na]と開いた時に崩れやすいので注意。3声のユニゾンですので揃えて歌いましょう。
- ・68小節 (アルト) : 2・3拍目を何度か練習しました。パートとして綺麗に揃えられるよう、オクターヴ跳躍での声の切り換えを上手にお願いします。響きが散ってしまわないように。ここのフレーズ全体的に3-bのポジションを意識すると良いと思います。
- ・70小節 (アルト・テノール) : 1拍目裏のピッチが曖昧にならないように。しっかりとバスのGにぶつけてください。
- ・85小節 (下3声) : 1拍目の"-en"は短すぎないように。響きが残っているように丁寧に歌いましょう。
- ・111小節～ (全員) : "entgegengahn"の発音。第2・4音節は長母音[e:]ですが、特にその"-ge-"の音色が汚いと指摘がありました。丁寧に、音色を意識して歌いましょう。

★Wachet auf, ruft uns die Stimme (第3楽章 (411小節 Allegro～))

- ・全体 : 休符の後入る"des"はひるまないように。頭に[n]がつくのもNG。各パート共スッと入れるようにしましょう。また"sind"の発音がバラけます。最後の[t]をきちんと発音する、「ジ」にならないようにするなど注意してください。
- ・411小節 (バス (全員)) : 4拍目のAはナチュラルです。曖昧にならないように。3拍目からはB-durに読み替えて「ラーシード」と読みます。他のパートも同様です。
- ・416～418小節 (バス) : 高音域が続きます。その直前、415小節の低音部を軽い声で、特に416小節1拍目のBを下におろさないのがコツです。
- ・426小節 (アルト) : 1拍目裏Aが曖昧にならないように。前にAsを歌うので、違いを明確にしましょう。
- ・432小節 (アルト・テノール) : ここはシンクペーションになっています。弱拍ですが軽くアクセントを入れてください。言葉が立つようお願いします。
- ・436～437小節 (全員) : 「綺麗にハーモニーする声」が必要です。436小節はアルトに、437小節はバスに基音がありますので全員そこに寄せることを意識しましょう。特にバスはオクターヴ超の跳躍がありますが、このDは細いところから入ることを意識してください。

今回は第2楽章を中心に練習し、Lobet den Herrnに進みます。

備考

冒頭へ

月初の練習日に移動

2021年9月8日 (水)

練習箇所

Carl Philipp Emanuel Bach
・ Vier Motetten (Wq 208)
Johann Christoph Friedrich Bach

・ Wachtet auf, ruft uns die Stimme

記事

全体発声：31分

<内容>

Vier Motetten (Wq 208) は次の曲に入る時に、音を取り直さずに歌い出す練習もしました。

★Trost der Erlösung (Wq208.1)

・ 1回通して歌いました。

★Der Kampf der Tugend (Wq208.2)

・ 41～48小節（男声）：41小節から2小節半を一つのフレーズとして歌う。8分休符の後はヘミオラに感じて歌う。47～48も同様にヘミオラです。

・ 62小節（全員）：5拍目でフレーズングしてから、6拍目に入ります。

★Bitten (Wq208.3)

・ 8小節（アルト）：fisの音がテノールと合っているか意識する。

・ 12小節（アルト、テノール）："und"の語尾をソプラノに合わせる。

・ 28小節～（男声）：普通の音量で。

・ 30小節（男声）：3拍目"um"は仕切り直して入る。

・ 36小節（男声）："den"の"n"が素っ気なくならないように余韻を持たせる。

・ 37小節（アルト）：2拍目上ずらないように。

・ 41小節（アルト）：息漏れのしない声で。

・ 44小節（男声）："Gib mir"はもう少しだけ踏み込んだ感じで。

・ 56小節（全員）："nen"の語尾の"n"を意識する。

・ 70～71小節（男声）：ヘミオラに感じて歌う。

・ 111小節～（全員）：音が変わる毎にハーモニーをしっかり決める。

★Die Menschenliebe Jesu (Wq208.4)

・ 1回通して歌いました。

★Wachtet auf, ruft uns die Stimme

・ 1回通して歌いました。来週も練習します。

備考

[冒頭へ](#)

月初の練習日に移動

2021年9月1日（水）

練習箇所

Carl Philipp Emanuel Bach

Zwei Psalmen

・ Der2.Psalm (Wq205)

・ Der4.Psalm (Wq206)

Vier Motetten (Wq 208)

・ Trost der Erlösung (wq 208.1)

・ Der Kampf der Tugend (wq 208.2)

記事

全体発声：50分

<内容>

※基本的に第1節の小節番号で記載していますが、繰り返す曲では特に音の注意はどの節も同様です。各自確認をお願いします。

★Der2.Psalm (Wq205)

- ・1小節（ソプラノ）：第5のポジションを意識して軽めにスタートし、2小節目に向かって広がっていくイメージ。第10節以外は言葉にアクセントもないので全体的に同じパターンで歌い出しましょう。
- ・2小節（下3声）：出だしのピッチを決めましょう。頭にイメージして入れるようにしてください。
- ・12小節（ソプラノ）：1拍目裏のFは不協和音になります。不安定になりやすいのでしっかり上がりましょう。

★Zwei Psalmen (Wq206)

- ・10小節（全員）："-keit"は語尾ですので軽く短く。でも語尾の子音は聴こえるように。
- ※因みに第2節、第9節は言葉にアクセントがあるので事情が若干異なりますが、いずれにしろ拍内に収めるようにお願いします。
- ※先生からは「歌詞によって歌い方が変わる、こういったところが有節歌曲の面白さです」とお話がありました。全体的に以前練習した時につけた抑揚を思い出して、言葉が生きるように歌いましょう。

★Trost der Erlösung (wq 208.1)

- ・冒頭（男声）：間延びしないよう軽やかにスタートしましょう。特に第1節はコンマがついていますので"Gedanke"の語尾を短めにスッと取って1小節目にパッと入れるよう前に進んでください。
- ・3小節（アルト）：2拍目のCをしっかりと決めましょう。特に第8節（13小節）、第14節（23小節）は言葉が繋がっているため上がりきらない傾向があります。改めて上から取り直すイメージをお願いします。

★Der Kampf der Tugend (wq 208.2)

- ・全体（全員）：語尾が"n"で次に休符、というケースで尻切れトンボになりがちです。途切れたように聴こえるので"n"の時間を作れるように意識してみてください。（小節の指定はありませんでしたが、例えば8小節"handeln"や最後"stillen"、あとは男声と女声で分かれる第2節、第8節にも出てきます。各自確認をお願いします）
- ・8小節（アルト・バス）：2拍目半音上がって和音が変わるところです。しっかり上がって決めてください。
- ・17小節（女声）：5拍目はハモリやすい音です（Cis-Ais）。お互いここを綺麗に通過する意識をもって歌いましょう。21小節も同様です。
- ・21～24小節（女声）：強弱pの箇所は特に第3bのポジションを意識してピッチを正確をお願いします。息漏れがするとハモリにくくなります。
- ・22小節（アルト）：4拍目のHは3拍分ピッチをしっかりと保ちましょう。ソプラノが5拍目で半音下がりますが動じずをお願いします。
- ・24小節（アルト）：ここはソプラノと3度でずっとハモります。パートの中で声を揃えましょう。
- ・43～44小節（男声）：44小節までfをキープしてください。テノールとバスが入れ替わる辺りで若干尻すぼみな傾向があります。
- ・45小節（男声）：2拍目の"oft;"はセミコロンがついていますので文節をしっかりと区切ります。短めに語尾をはっきり言って4拍目入り直してください。なお、1拍目の"Bet"は長母音ですのでもう少し口を横に広げて発音してください。
- ・53小節（全員）：2拍目の"-ch"はしっかり聴かせて八分休符を作ります。間延びしないようお願いします。

次はBitten (wq 208.3) に進みます。

備考

2021年8月25日 (水)

練習箇所

Johann Sebastian Bach

- ・ Lobet den Herrn (BWV230)

Carl Philipp Emanuel Bach

- ・ Zwei Psalmen (Wq205 Wq206)
- ・ Bitten (Wq208.3)

記事

全体発声：45分

<内容>

★Lobet den Herrn (BWV230)

- ・ 3拍子の"alleluja"の部分を練習しました。
- ・ 最初の歌い出しは息を準備しすぎず、軽くスッと入る。
- ・ 5度降りた"-ja"が重くならないように。またポルタメントもかけず、清潔な5度を作るように。
- ・ 155小節 (アルト)：テノールに合わせる。1拍目を少し絞り、仕切り直して2拍目に入る。
- ・ 最後に全曲通して歌いました。

★Zwei Psalmen (Wq205)

- ・ 曲調はのどかですが、言っている内容は厳しいので、生真面目に歌う。
- ・ 15小節1拍目の不協和音を意識してしっかりぶつける。
- ・ 4小節ごとのフレーズの最後に重要な言葉が来ていることを意識する。

★Zwei Psalmen (Wq206)

【1番】

- ・ "ich"に乗っかる。
- ・ "antworte mir," "o Gott" "von deiner Höhe!"のように2拍子で分けずに歌う。

【2番】

- ・ "Der"は冠詞ではないので、軽くアクセントをつける。
- ・ "du" "Weg" "Angst"に乗っかる。

【9番】

- ・ 27～30小節を一つのフレーズでコンマはあまり意識せず、滑らかに歌う。
- ・ 30～34小節も同じ。
- ・ 36小節の"an"に思い入れを入れて大切に。
- ・ 36小節～のフレーズを滑らかに柔らかく歌う。

★Bitten (Wq208.3)

- ・ 通して歌いました。

次回は引き続きC.P.E.Bachを練習します。

備考

2021年8月18日 (水)

練習箇所

Johann Sebastian Bach
 ・ Lobet den Herrn (BWV230)

記事

全体発声：45分

・今日は特に[u]の母音で先生が発音のお手本を何度も出してくださいました。なるべく真似をして日本語の「ウ」にならないように注意しましょう。

<内容>

★Lobet den Herrn (BWV230) 曲を4つのブロック (1~23小節、23~58小節、58~98小節、99小節~LAST) に分けて、3つ目のブロックまで練習しました。

最初はゆっくり、男声のガイドをつけて音を確認、その後通奏低音を弾いていただき少しずつテンポアップしていきましました。

・冒頭の"Lobet den Herrn"まで滑らかに歌いましょう。1音ずつ切れてしまわないように注意してください。次の"alle"も同様です。

・"alle"や"Heiden"の語尾が「エ」になりすぎないように。曖昧母音をお願いします。

・"Heiden"の二重母音は[a]が長くて[i]は付け足しのようにします。「ハイー」とはならないようにしましょう。

・"über"は「ウーバー」でも「イーバー」でもありません。uウムラウトの発音を各自確認しておいてください。

・2小節 (アルト) : ここはアルトの音符だけみると「ソシレソ」と読めますが、1音ずつ和音がすべて違います。歌い出しから「ドミソ」→「ソシレ」→「レファ#ラ」→「ソシレ」と変化しています。通奏低音を聴いてハーモニーを連想できるようにするとピッチが安定します。

・11小節 (テノール) : スラーがついているところだけでなく、言葉がひとつに聴こえるように繋げて歌いましょう。

・28, 30小節 (男声) : 1,2拍目は通奏低音がなぞってくれていませんので注意してください。

・33小節 (テノール) : 1拍目はHです。Bになりやすいので注意。なお、次の34小節1拍目裏はBです。この辺りHとBが交互に出てくるので注意してください。

・59~60小節 (全員) : 59小節3拍目ではブレスをしません。60小節3拍目まで一息です。男声は"Wahrheit"の語尾を女声と一緒に短く切ります。65~66小節も同様です。

・69小節 (下3声) : 4拍目裏の和音が決まり辛いので注意。特に男声は前の音からかなり上の音に飛ぶのでハーモニーを意識して注意深く出します。なお、ここは弱拍です。アクセントはつかないように注意してください。

・77小節 (テノール) : 見せ場です。朗々と歌ってください。3~4拍目のオクターヴの跳躍が切れてしまわないように、ポルタメントかけても良いので繋げましょう。ここも次の小節の"Wahrheit"まで一息をお願いします。

・86~90小節 (全員) : この曲の難所です。どうしても走る傾向があり、縦の線が揃いません。慌てずにアンサンブルを意識して歌いましょう。

次回は最後の3拍子"alleluja"を練習してから、C.P.E.BachのZwei Psalmenに移ります。

備考

2021年8月8日（日）

練習箇所

全曲

記事

同仁会館にて15:00～18:50まで臨時練習を行いました。

全体発声：50分

<内容>

★Wachet auf, ruft uns die Stimme（第3楽章）

一度通して歌ったあと、部分的に練習しました。

Allegro（411小節～最後）

- ・ Allegroですので『快活に』歌えるよう、速いテンポに慣れましょう。
- ・ 最初の"de-"はどのパートも不安定になりやすい言葉だと思います。そしてピッチの不安定を回避するために、ついに"n"をつけがちです。「ンデ」にならないように注意しつつ、丁寧に、上品に歌い出しましょう。
- ・ "des"、"sind"の語尾がなくなる傾向があります。無声子音をしっかり発音してください。
- ・ 最初の四分音符は主にEsから始まるパターン（ex.411小節バス）と、Bから始まるパターン（ex.412小節ソプラノ）があります。Es-G-A-Bのパターンの方はB-durの音階（ファーラーシード）で読みます。各パートともA♯（音階のシ）がたまに外れることがありますので注意して通過しましょう。
- ・ 最初のテーマはフレーズを意識しましょう。"des"は軽く、"sind wir froh"は繋がっています。四分音符でぶつ切りにしないように。その後の"ewig in jubilo"もひとつのフレーズです。八分音符でテンポも速いので大変ですが、1音ずつ歌いにせず滑らかに流れるように歌います。
- ・ "I"の母音が「個性が出やすい」という指摘がありました。ハーモニーに溶ける声で歌いましょう。（指摘があったのは438小節以降の"in"でしたが、全体的な問題だと思いますので意識してみてください）
- ・ 411小節（バス）：前の小節のフェルマータから一度仕切り直して出直します。指揮を見てタイミングを合わせましょう。
- ・ 420小節（アルト）：2拍目のGはソプラノと5度を作る重要な音です。ハーモニーを意識して頭に音を描いてから歌い出すようにしてください。
- ・ 424小節（バス）：出だしのDが不安定になる時があります。他パート（ソプラノ？）から上手に取って入ってください。
- ・ 429小節（バス）：2拍目裏はGです。412小節のEsと勘違いしている人がいたら修正してください。
- ・ 435小節（全員）：3拍目のハーモニーを決めましょう。ソプラノからバスまでの音域に約3オクターヴの乖離があります。合わせ難いと思いますが、音色を揃えることでハーモニーが決まってきます。アルトのDが第3音となる重要な音です。しっかり上がりましょう。
- ・ 436～440小節（全員）：どの音も縦の線でハーモニーが決まるように意識して歌いましょう。男声は436小節3拍目がユニゾン、次は5度、438小節3拍目はオクターヴ、といったようにポイントがありますのでそこをうまく通過してください。全体としては438小節2拍目が一番バラけるのでそこを決めにいきましょう。
- ・ 440小節～最後（全員）：440小節2拍目から最後まではひとつのフレーズです。途中休符が入る箇所もありますが、休符を乗り越えてフレーズが繋がっていることを全員で共有しましょう。特に443小節2拍目の内声の休符はそこで切れてしまわないように注意。

Choral（365～410小節）

- ・ フェルマータは特に長さを決めていません。指揮を見て歌えるようにしてください。
- ・ 冒頭の"Gl-"は[g]と[l]を一緒に発音するイメージです。なお、「グロ」とはならないように注意してください。
- ・ 368小節（全員）：冒頭からのフレーズはこの小節"-su-"に重しがかかるように歌います。次の"-gen"は語尾ですのでアクセントはつきません。

・369小節（テノール）：前のAからDへの4度の上昇音形は不自然かつ到達したDが第3音になりますのでピッチを注意してください。

・394小節（全員）："Aug"の二重母音+[k]をしっかりと発音しましょう。下手をすると「ア」だけで終わってしまいます。

・400小節（全員）："solche Freude"（そのような喜び）ここを味わい深く歌いましょう。歌い飛ばさない。その言葉を受けて、次の"Des sind wir Froh"（このことをわたしたちは楽しめます）という言葉が出てきます。

★Wachet auf,ruft uns die Stimme（第2楽章）

・181小節～（全員）："Herz"を短く切って次の"tut"と"ihr"をしっかりと歌います。ここは何度も注意を受けています。身体で覚えられるよう各自復習をお願いします。

・195小節～（テノール）：慌ててしまって走る傾向があるのでソプラノと動きを合わせるようにしてください。先生からは196小節の動きを指摘されましたが、入りのところも八分音符が詰まるので注意が必要です。

・237, 238小節（バス）：Eの音をデリケートに取りましょう。特に238小節2拍目の音は女声とぶつかるため不安定になりやすいので注意してください。

★Wachet auf,ruft uns die Stimme（第1楽章）

・67～70小節（アルト）：68小節2拍目からはメゾソプラノの心持ちで歌いましょう。1拍目まではアルト→2拍目からはメゾへ『声の性格』を変えるといたお話がありました。カッコいいところですので頑張ってください。70小節1拍目裏のAはピッチが不安定になりやすいので注意。

・77小節（下3声）：2拍目"Munde:"まででフレーズが終了し、3拍目"wo"から新しいフレーズが始まります。2拍目の長さを短めに揃え、全員で3拍目揃ってスタート、しかもこの"wo"はテヌート気味に長く歌います。

・80小節（バス）：4拍目裏のEが不安定になりがちです。重要な音ですので丁寧に通過してください。

・94小節（バス）：1, 2拍目のCでたまに違う音が聴こえてくるので勘違いしていないか各自確認をお願いします。

・116～121小節（アルト）：ここもメゾソプラノの響きで輝かしく、エネルギッシュに歌ってください。ここは長い上昇音形で「後になればなるほど艶が出るように」とのことでした。特に117小節3拍目裏B-C-D-Es、119小節1拍目裏Es-D-C-B、120小節1拍目G-Cの辺りが山になっていますので意識してください。

★Lobet den Herrn（BWV230）

一度通して歌ったあと、23小節までをゆっくり練習しました。

・3小節（アルト）：1拍目裏からの下降音形が若干上ずる傾向があるのでピッチ注意してください。

・7～8小節（テノール）：HとBの違いを明確にしましょう。7小節3拍目裏はH、8小節1拍目裏と2拍目はBです。曖昧にならないよう確認をお願いします。

★Vier Motetten（Wq 208）

★Zwei Psalmen（Wq 205,206）

一度通して歌いました。

備考

♪柿沼さんが久しぶりに練習に参加してくださいました。

♪アルトに見学者がいらっしゃいました。

♪今週11日（水）はお休みです。次回は18日となりますので各自復習をお願いします。

冒頭へ

月初の練習日に移動

2021年8月4日（水）

練習箇所

記事

全体発声：48分

<内容>

★Wachet auf, ruft uns die Stimme (第2楽章)

- ・ 145小節 (男声) : 1拍目裏の"die"の歌い出しをよく揃える。
 - ・ 147小節 (下三声) : 1拍目表はたっぷりと歌い込む ("n"をあまり早く言わないように)。裏拍の"gen"は収める。155小節も同様です。
 - ・ 168小節 (内声) : 1拍目裏で軽くフレージングする。
 - ・ 180小節 (バス) : 歌い出しの音をソフトな端正な声でよく揃える。
 - ・ 180~181小節の音形 (全パート) : "Herz"と"tut"を分けて発音する練習をしました。完全に分けないと、"tut"の発音が曖昧になってしまいます。(190~191小節の音形も同様です)
- "ihr"と"fur"がぶつ切りにならないように。
- ・ 201、203小節 (テノール) : ソプラノと音がぶつかるので、しっかりぶれないように取る。
 - ・ 212~213小節 (女声) : 言葉の長さを揃える。
 - ・ 213小節 (アルト) : "steht"は"s"でbの音をとるのではなく、次の"t"で取る。
 - ・ 225~226小節 (全員) : 歌い出しのフレーズ"Ihr Freund kommt"は育っていくように歌う。
 - ・ 230小節 (女声) : 音が低いですが、痩せ細らないように。
 - ・ 239小節 (全員) : 2拍目裏で仕切り直して歌い出す。
 - ・ 249~250小節の音形 (全パート) : 言葉を丁寧に。ぶつ切りだと、テンポが走る要因になります。8分音符が並んでいるところは、基本的に表拍長め、裏拍短めを意識しましょう。
 - ・ 270~273小節 (テノール) : 女声に溶け込むような音色 (裏声多め) で歌う。
 - ・ 273~275小節 (バス) : 下りのフレーズを丁寧に歌う。
 - ・ 277~279小節 (全員) : "Nun komm"はアクセントをつけてしっかり歌う。
 - ・ 294~302小節 (全員) : 言葉を丁寧に。表拍を長めに。滑らかに上昇音形を歌い、302小節まで一気に流れを作っていきます。
 - ・ 306小節 (男声) : "all"の後ブレスを取って、"zum"の歌い出しをソプラノと揃えましょう。
 - ・ 319小節 (全員) : 休符はありますが、文章はつながっていることを意識してフレーズを作りましょう。
 - ・ 終わり4小節 (全員) : すぐに力を抜かず、最後の"mah!l"を歌い出してから抜いていきましょう。

備考

[冒頭へ](#)

[月初の練習日に移動](#)

2021年7月28日 (水)

練習箇所

Johann Christoph Friedrich Bach
・ Wachet auf, ruft uns die Stimme

記事

<内容>

★Wachet auf, ruft uns die Stimme (第1楽章)

- ・全体："Wachet"の"w"は有声子音です。音程を持った子音ですので、ずり上げたりしないよう最初から正しい音程で鳴らしましょう。
- ・1小節（全員）：2拍目"-chet"は語尾ですので軽めに発音し、次の"auf"をしっかり歌います。4拍目裏女声はBを表声でしっかり、Esは裏声で「エ」にならないよう曖昧母音で軽く歌うと声が揃います。
- ・9小節（全員）：1拍目裏から2つのグループ（Sop&Ten、Alt&Bas）がかみ合う音形になっています。アンサンブルに気をつけて上手く歯車が噛み合うように意識しましょう。
- ・41小節（ソプラノ）：最初は「気持ちが入る入口」だと思って、だんだんと"auf"に向けて盛り上げます。初めから強く出そうと思わないこと。
- ・42小節（下3声）：ソプラノの導入を受けて「バン」と揃えて出てください。
- ・45小節（アルト・テノール）：1拍目の"-me"はぶっきらぼうにならないように。拍内におさめますが丁寧に、長さを揃えて歌いましょう。また、「メ」と決めつけないように注意。語尾なので曖昧母音を意識してください。
- ・51小節（バス）：4拍目からのフレーズはAナチュラルになります。ハーモニーを注意深く感じて歌い出します。次の小節の下降音形もAを意識して綺麗な音階を作りましょう。
- ・61小節（下3声）：発音のタイミングを揃えましょう。付点のリズムを正しく、慌てずに歌うと揃うと思います。
- ・82小節～（全員）："wo"は子音をしっかり発音することと、"o"は唇をすぼめて発音してください。"klugen"の"k-"が「ク」にならないよう注意。無声子音の[k]を個別に発音します。
- ・83小節（下3声）：4拍目"-gen"。ここも響きがぶっきらぼうにならないように、"-n"を丁寧に発音します。85小節1拍目も同様です。
- ・86小節（アルト・テノール）：3拍目裏D-Asの音が安定して出られるよう予めイメージしておきましょう。
- ・88小節（バス）：2拍目"stehet"を上手に通過しましょう。鍵は裏16分音符のGです。下の重い声になると外れ易い、また、歌い直してしまうと語尾にならなくなります。軽く、すぐに"-z"を言うつもりで歌うと次の"auf"が出やすくなると思います。
- ・109小節～（特に男声）："müset"の発音。"-ss-"は濁りません。文字通り[s]が2つです。また"ü"が「イ」になり過ぎないように注意してください。

★Wachet auf, ruft uns die Stimme (第2楽章)

- ・全体：慌てずに歌いましょう。苦し紛れ？に聴こえてしまうと良くありません。ここはModeratoの指示がある通り、いわゆるソナタで言えば『緩徐楽章』の位置付けになります。ゆったりとした流れにしていきます。
- ・174小節（全員）：1拍目"-gen"は全員でフレーズが切れますが、丁寧に、乱暴にならないように注意してください。
- ・181小節～（全員）："das Herz tut ihr"の歌い方。"Herz"を短く切って次の"tut"と"ihr"をしっかり歌います。ここは以前に何度も注意を受け、練習していますので、同じ注意を受けないように復習をお願いします。
- ・249小節～（全員）：バスから始まるこのフレーズは慌てず丁寧に歌いましょう。表拍（特に"Licht", "Stern"）に重さを置き、裏拍は「軽く短く」を常に意識してください。

最後に第3楽章を途中まで歌って時間切れとなりました。次回は第2楽章から練習します。

備考

■冒頭へ

月初の練習日に移動

2021年7月21日（水）

練習箇所

Carl Philipp Emanuel Bach

Vier Motetten (Wq 208)

- ・ Die Menschenliebe Jesu (wq 208.4)

Johann Christoph Friedrich Bach

- ・ Wachet auf, ruft uns die Stimme

記事

全体発声：50分

<内容>

★Die Menschenliebe Jesu (wq 208.4)

- ・ 21小節 (アルト)：4拍目のピッチを正確に。上顎のポジションを使って、ソプラノとの短3度をきれいに響かせる。決してずり上げないように。
- ・ 24小節 (男声)：3拍目を短く切って、4拍目が遅れず正確に入るように。

★Wachet auf, ruft uns die Stimme

- ・ 1楽章を練習しました。
- ・ フレーズの歌い出し、終わりを丁寧に。
- ・ 言葉が形作られるように考えて歌う。
- ・ 42～120小節は内声が手を携え合っているところが多いので、そのことを意識して歌いましょう。
- ・ "wachet"は「ヴァッヘット」にならないよう、レガートに歌いましょう。

- ・ 9～10小節：4分音符の"auf"は、短くならないよう、長さをきっちり保ちましょう。
- ・ 12小節：3拍目は語尾ですが、音楽が途切れないう長さを保ちましょう。(24小節も同様)
- ・ 12～14小節：一本調子にならないように。1拍目"Stim"、3拍目"Wäch"に重さを置いて、抑揚を付ける。
- ・ 18～19小節 (バス)："wachet"は8分音符2つとせず、"wa"を長めに歌う。"chet"は"wa"と同じ口の形で歌う。
- ・ 22小節 (テノール)：2拍目gは、女声とのハーモニーを意識する。
- ・ 37～38小節："auf"の長さを揃える。またハーモニーも意識する。

- ・ 来週も1楽章を練習します。

備考

♪パンフレット掲載用の対訳が出ました。onedriveの演奏会参考資料に入っています。

[冒頭へ](#)

[月初の練習日に移動](#)

2021年7月14日 (水)

練習箇所

Carl Philipp Emanuel Bach

Vier Motetten (Wq 208)

- ・ Bitten (wq 208.3)
- ・ Die Menschenliebe Jesu (wq 208.4)

記事

<内容>

★Bitten (wq 208.3)

- ・16小節（男声）：2拍目は新しいフレーズをスタートさせるイメージで、発音のタイミングを揃えましょう。
 - ・28小節（男声）：3拍目から第2節が始まります。それまでppの音楽ですが、音量は普通に戻してOKです。但し、出だしは弱拍ですので軽く、発音のタイミングを揃えてください。
 - ・31小節：“ü”が「イ」になりすぎています。唇をすぼませることを意識しましょう。
 - ・34～36小節：“dieser Erden”はひとつのフレーズにしましょう。ブレスはその前でお願いします。（本来は32小節“und”からずっと一息がベストです）
 - ・52小節～（全員）：ここは4声のア・カペラです。ppの表情を作っていきます。
- 出だしはアルトとバスの二重唱です。バスはアルトに寄り添うように、そして“und”は軽めに処理してください。
- ・65小節（アルト）：1拍目Eの音はしっかり上がりましょう。
 - ・66小節（アルト）：3拍目Aの音はソプラノにしっかりぶつけます。
 - ・108小節～（全員）：108小節2拍目“-keit”の語尾を全員で揃えましょう。pの音楽にガラッと変わります。その後、ブレス位置変更です。
 - ・109小節“dir”の後はブレスは無し
 - ・111小節の前で全員揃ってブレスします。
 - ・男声は112小節と113小節の間のブレス無し
 - ・115小節の前で全員揃ってブレスします。

★Die Menschenliebe Jesu (wq 208.4)

※対訳一部訂正

56小節“die nur Beglückte …”のくだりで、『改心した者たちのみを』と記載されていますが、『幸せな者たちのみを』に訂正します。

対訳はパンフレット掲載版を近日中に出していただけるそうですので、そちらをご確認ください。

※テノールの皆様へ

この曲は女声2声と通奏低音のオリジナルに合唱のバスを追加しているとのことで、下のGなど低い音が頻出します。適宜オクターヴ上げて歌ってください。

- ・全体：この曲には基本休符がありません。フレーズの終わり、ブレスを取る前の音が乱暴になりがちです。指揮もフレーズ終わりを収めるように振ってくださいますので、指揮を見て丁寧に歌いましょう。
- ・20小節（男声）：高い音から始まるフレーズ、しかもpです。女声が低い音域を歌っていたりするとところも多いので突出しないようバランスを考慮してください。裏声を上手に使うと良いと思います。
(24小節、28小節、34小節も同様)

★Der Kampf der Tugend (wq 208.2)

48小節まで歌って時間切れとなりました。だいぶ忘れていたようですので、各自復習をお願いします。

今回はWachet auf, ruft uns die Stimme に入ります。

備考

- ♪演奏会チラシ、チケットほか関連資料を配布しました。
- ♪8月11日（水）は会場が確保できず、練習休止となります。

■ [冒頭へ](#)

月初の練習日に移動

練習箇所

Carl Philipp Emanuel Bach

Vier Motetten (Wq 208)

- ・ Trost der Erlösung (wq 208.1)
- ・ Der Kampf der Tugend (wq 208.2)
- ・ Bitten (wq 208.3)

記事

★Der Kampf der Tugend (wq 208.2) を丁寧にさらいました。

- ・ 4声の節（1節、11節）は内声の音域が近いので、テノールは、アルトとの親和性を持つイメージで歌う。

<1節>

- ・ 1小節："klagt"は"la"のところで、音を取る。語尾の子音もしっかり発音する。
- ・ 7小節（バス）："und"と"zu"がつかないように。
- ・ 8小節：フレーズ終わりのハーモニーは、内声の声が出ないように（声帯を閉じる）すると安定します。
- ・ 9小節："ist's"の子音を揃える練習をしました。"Die"の前に16分休符を入れるくらいの感じで。
- ・ 9小節（テノール）：5～6拍目のhはソプラノのhと合わせることを意識しましょう。10小節の3拍目も同様です。
- ・ 12小節："Doch"は通奏低音に合わせて、pにします。
- ・ 12小節：6拍目のドミソの和音のハーモニーを大切に。
- ・ 13小節：1拍目の減7の和音に入る練習をしました。
- ・ 12～14小節（男声）：pのフレーズは上顎のポジションを使って力まずに歌いましょう。
- ・ 15小節："kämpfen"の"mp"はどちらも発音しましょう。

<2節>

- ・（アルト）：出だしの"Die"はソフトに。
- ・ 17小節（アルト）："die"と"sich"を分ける。"sich"を少しだけ強めに。
- ・ 18小節（アルト）："Laster"の"s"を言うときに息を流さないようにすると語尾の"ter"のピッチが安定します。
- ・ 25小節（アルト）："Der"は冠詞なので長母音ではありません。2拍目の"Fro-"を強めに。

<8節>

- ・ 33小節："streitest"の頭の子音を前に出す（前の"Dü"は短めに）。また、語尾の子音もしっかり立てる。
- ・ 33小節："nicht"の"cht"のタイミングを合わせるために、後ろでブレスを取ります。
- ・ 35小節："drum"の母音が浅くならないように。また、"drum"と"muß"はつながってもよい。
- ・ 35小節："dir"は巻いて、次の"ge-"をはっきり発音し直す。
- ・ 41小節：fでしかも高音ではありますが、できるだけ端正に。また6度でメロディが動いていることを意識する。
- ・ 42小節："Stein"の後、できればブレスをとらず、一つのフレーズにする。
- ・ 43小節（バス）：高音部は裏声を使ってオブリガートとして歌い、テノールの旋律を引き立てましょう。
- ・ 43小節："Brot"の"t"を出す。
- ・ 45～46小節：pの部分は声がぼやけないように。

<11節>

- ・ 49小節："lich"と"Christ"の語尾が揃うように。
- ・ 53小節："dich"の"ch"のタイミングが揃うように。
- ・ 52～56小節：54小節のハーモニーが肝です。3拍目の単純なハーモニーを透明に響かせる。アルトのaの音が上ずらないよう、ソプラノのgにぶつける。
- ・ 54小節（バス）："wagt"を早めに切り、フレーズをはっきりと。
- ・ 59小節："sieht"の子音をしっかり言い切る。
- ・ 60小節（男声）："-len"はアルトに合わせて早めに切る。
- ・ 62小節～：ppの雰囲気（密やかなイメージ）を出す。

★Bitten (wq 208.3)

- ・ 1 回通しました。
- ・ 80小節 (テノール) : 3拍目からppにします。

★Trost der Erlösung (wq 208.1)

- ・ 1 回通しました。
- ・ 出だしのタイミングは「1ト2」とカウントして出ます。

★来週はBitten (wq 208.3) を中心に練習します。

備考

♪ テノールパートに見学にいらしていた寺尾さんが正式に入団されました。

冒頭へ

月初の練習日に移動

2021年6月27日 (日)

練習箇所

Johann Sebastian Bach

- ・ Lobet den Herrn (BWV230)

Carl Philipp Emanuel Bach

Vier Motetten (Wq 208)

- ・ Trost der Erlösung (wq 208.1)
- ・ Der Kampf der Tugend (wq 208.2)
- ・ Bitten (wq 208.3)

記事

新宿文化センター第2会議室にて13:15~16:45まで臨時練習を行いました。

全体発声：48分

<内容>

★Lobet den Herrn (BWV230)

一度通した後、テノールの音取り中心に練習しました。個別の注意事項は割愛しますが、全体的に以下2点を意識して歌いましょう。

- ①フレーズングを考慮してブレス位置を再度確認してください。コンマの位置がひとつのポイントです。
- ②和音が変わるところで音を取り難くなる傾向があるので、練習で止めて繰り返した箇所は特にチェックしておいてください。

・ 43小節 (テノール) : ここはテーマの箇所です。音が低くて歌い難いかと思いますが、しっかり出てください。出だしの音はバスから繋げられると思います。

・ 59小節 (全員) : "Gnade"と"und"の間ではブレスせず、"Wahrheit"までを1つのフレーズにします。以下、65小節、71小節は全員同じ箇所と同様です。また、それ以降各パートバラバラになりますが、各々歌詞の区切りを確認して同様にフレーズングしてください。

・ 60小節 (全員) : 3拍目"-heit"は軽く短く切り、ブレスを取って女声が4拍目"wa-"と出ます。男声も女声と同じタイミングで切ります。この発音は思っているよりも時間がかかってしまうので、残らないよう注意。(66小節も同様です)

・ 77小節ほか (全員) : "Ewigkeit"の語尾"-keit"も同様に時間がかかって伸びる傾向があるので、軽く短く切りま

す。特に98小節は全員で綺麗に揃えましょう。

- ・99小節～（全員）："Alleluja"のテーマのフレージングについて。ソプラノを例にとると、102小節までの4小節、2回の"Alleluja"で1つのフレーズです。129小節からの男声はその後休符がないので大変ですが、最初の4小節は1つに取ってその後はコンマでブレス、という形になります。
- ・132小節（バス）：2拍目裏はFナチュラルです。Fisにならないよう注意。
- ・162小節（テノール）：ここはアルトの3度上でハモります。前の"-ja,"を軽く取って、Fの音を決めましょう。

★Troost der Erlösung (wq 208.1)

この曲も一度通した後、発音を確認しながらゆっくり練習しました。

- ・冒頭（男声）：出だしは皆で息を合わせてリズム感良くスタートしてください。
- ・2小節（テノール）：低いGの音は1オクターヴ上げて歌っても問題ありません。（6小節、以降の節も同様）
- ・4小節（全員）：1拍目裏のハーモニーを決めましょう。注意深く、収めるように歌うことで解決できると思います。（以降の節も同様）
- ・13～14小節（全員）："ewgen""Lebens"の"ew-""Le-"は長母音、次の"Erbe"の"Er-"は短母音です。区別して発音してください。
- ・17～18小節（全員）："leb"の語尾[p]をしっかり発音しましょう。また、"sterbe"は子音を前に出せるよう、前の"und"を軽く短くします。
- ・26～27小節（全員）："allezeit"と"treu"は明確に分けます。"-zeit"は語尾なので収めますが、軽くて良いので[t]を発音してください。そして"treu"は大切な言葉ですのできちんと言い直します。
- ・29小節（男声）："Welt"の語尾を上手に処理して"vor"を新たなフレーズで歌い始めます。
- ・36小節（全員）："uns der,"の"der"は長母音、次の"der ihn"の"der"は短母音です。区別して発音してください。

★Der Kampf der Tugend (wq 208.2)

★Bitten (wq 208.3)

一度ずつ通しました。次回はこの曲から練習します。

備考

6月30日（水）は先生のご都合で練習お休みです。次回は7月7日（水）です。

[冒頭へ](#)

[月初の練習日に移動](#)

2021年6月23日（水）

練習箇所

全曲

記事

全体発声：24分

<内容>

最初に全曲通してから、Zwei Psalmen（Der 2.Psalm：Wq205）の練習をしました。

★Zwei Psalmen（Der 2.Psalm：Wq205）

- ・概ね、強拍に乗っかって歌いましょう。のっぺらぼうな歌い方にならないように。
- ・1～2小節："Warum"は"ru"にアクセントがつかます。
- ・4小節（男声）："dräuen"の"en"は強拍ですが、語尾なので歌い込まないように。

- ・バス：13小節のパターンのフレーズの時、ばらけやすいので注意して歌いましょう。（7度上がる場所、発音が"e"に変わるところ）
- ・39～40小節：出だしの"Be"はよく揃えて歌いましょう。
- ・58～59小節："Küsst ihn"はしっかり歌いましょう。
- ・61～62小節："eilt"は素早く言いましょう。男声は2分音符に乗っかっている"eilt"も伸びすぎないように。

備考

♪テノールパートに見学者がいらっしやいました！

冒頭へ

月初の練習日に移動

2021年4月21日（水）

練習箇所

Carl Philipp Emanuel Bach

Vier Motetten (Wq 208)

- ・Der Kampf der Tugend (wq 208.2)
- ・Bitten (wq 208.3)

記事

全体発声：54分

<内容>

★Der Kampf der Tugend (wq 208.2)

- ・譜面に記載されている“Ernsthaft”は『生真面目に』という意味です。歌詞の意味も見ながらその雰囲気を出せるようにしていきましょう。
- ・4小節～（全体）：強弱記号pの部分は第3-b（上顎）のポジションで歌います（13小節など、その先も同様）。声を集めて、小さく緊張感のある声にしましょう。特にバスは低音が太い声になりやすいので注意。
- ・8小節（バス）：2拍目のEisははっきり階段を作るように上がります。ずり上げないよう注意。
- ・9小節（テノール）：入りのCの音、難所です。先生からはH→Aisに下りた後、6拍目の休符でもう一度HをイメージしてCの音へ移る方法でアドヴァイスありました。試してみてください。
- ・9小節（全体）：2拍目は付点四分音符が記されていますが、実質は四分音符外切りのイメージです。3拍目頭に全員揃って[ts]を入れて、裏拍から仕切り直して“Die”と歌い出します。特に男声が残る傾向にあります。
- ・12小節（下3声）：5拍目は明確にフレーズングして“Doch”を入り直します。
- ・19小節（ソプラノ）：3拍目はC（ナチュラル）です。Cisにならないよう注意。
- ・22小節（アルト）：ソプラノとの不協和音をしっかりとぶつけましょう。特に4拍目のHは最後[n]までピッチをキープします。
- ・35小節（バス）：3拍目のEは張りのある集まった声で歌います。コツは2拍目“muss”を短く切って次の“es”を準備して歌い直すこと。ずり上げにならないよう気をつけましょう。
- ・37小節（男声）：6拍目“-cher”は「エ」で終わらないように。“-r”を巻くか曖昧母音にしてください。
- ・39小節（バス）：3拍目からの下降音形が太く重い声になっています。上顎のポジションを意識して細い声のまま下りていきましょう。
- ・41小節（テノール）：ここはf（フォルテ）で、しかも上のAです。前までの歌い方から切り換えて、胸を高く上げて前の方のポジションを使ってバーンと出しましょう。
- ・49小節（全体）：5拍目“Christ”の語尾を揃えましょう。内切りです。
- ・52小節（男声）：4拍目は女声に合わせて四分音符+四分休符に変更です。且つ内切りで揃えましょう。

・62小節（バス）：6拍目からのppは第4（頭のとっぺん）のポジションから声を出します。

★Bitten (wq 208.3)

一度通しました。次回はこの曲から練習します。

備考

♪以前出していたいただいた Vier Motetten (Wq 208) 対訳について、幾つか訂正が入っています。OneDriveに格納していますので確認をお願いします。

■ [冒頭へ](#)

月初の練習日に移動

2021年4月14日（水）

練習箇所

Carl Philipp Emanuel Bach

Vier Motetten (Wq 208)

- ・ Trost der Erlösung (wq 208.1)
- ・ Der Kampf der Tugend (wq 208.2)

記事

全体発声：48分

<内容>

★Trost der Erlösung (wq 208.1)

<全パート>：

- ・ 同じメロディでも、歌詞によってフレージングが変わってくることを意識しましょう。
- ・ どの言葉が大事かということ意識して歌いましょう。
- ・ 8分音符+16分音符2つの組み合わせの音型の時、16分音符が詰まらないように。丁寧に歌う。

- ・ (男声)：2小節のように8分音符が並んでいるところは、表拍を少し長めに寄り掛かって歌う。女声も同様です。
- ・ 冒頭 (男声)：コンマのところで、フレージングする。

- ・ 1小節 (男声)：歌い出しの音を弱めにスタートし、膨らませて、Eの音をしっかりと歌いましょう。

- ・ 5小節 (男声)："also"の"a"の母音を丁寧に、端正に発音する。前のポジションに集めたところで歌うといいでしょう。

- ・ 8小節 (男声)："uns"の母音が浅くならないように。"seinen"は次の"Sohn"にかかる言葉なので、軽めに歌う。

- ・ 20小節~ (全パート)："mein Herz"で一つの言葉と感ぜられるように歌う。

- ・ 23小節 (男声)："deinen"は"Namen"に掛かる言葉なので、歌い込まないように。

- ・ 24小節 (男声)："und"の母音が浅くならないように。

- ・ 31小節 (男声)："Sohn"が大切なのでここに重心を持ってくるように。1拍目の"seinen"に声を当てすぎないように。

- ・ 35小節 (アルト)：1拍目のGはソプラノと5度を決める。長母音で、アクセントがついているようにしっかりと歌う。

- ・ 36小節 (アルト)：Fisの音がFを通過しているように聞こえたり、はっきり聞こえてこないことがあります。堅めに歌いましょう。

- ・ 39小節 (男声)：3拍目のDの音は声を重くしないように流して歌う。

★Der Kampf der Tugend (wq 208.2)

- ・ pianoの箇所は声を上顎など前のポジションに集めて細目の声で。
- ・ 22小節（アルト）：Cの音はソプラノとはつきり5度を作りソプラノが違う音に移ってもふらつかないように。次のHの音も同様。
- ・ 33小節（男声）；"strei-"の"st"は前に押し出して、"rei"を音符に乗せる。
- ・ 34小節（男声）："eigne"の鼻濁音"g"を丁寧に発音する。

備考

♪5月5日の練習開始時間を13時に変更しました。

冒頭へ

月初の練習日に移動

2021年4月7日（水）

練習箇所

Carl Philipp Emanuel Bach
Zwei Psalmen von C.P.E.Bach
Vier Motetten (Wq 208)
・ Trost der Erlösung (wq 208.1)

記事

全体発声：56分

<内容>

★Zwei Psalmen (Der 4.Psalm : Wq206)

通して歌ってみました。少なくとも最初の2小節は指揮を見てテンポ感を共有できるようにしましょう。先週まで練習した抑揚も忘れずに。

★Zwei Psalmen (Der 2.Psalm : Wq205)

最初に通してから、各節のソプラノの出だしを練習しました。その後、第9節、第10節を個別に練習しました。
※全体に共通する注意事項は第9節、第10節双方の小節番号を記載しています。第1節、第2節も同様ですので楽譜への書き込み等お願いします。

- ・ 20小節（ソプラノ）：2拍目“nah-”の響きが落ちないように注意。“n”は有声子音の中でも母音のように響きます。パートの中でピッチを揃えましょう。
- ・ 159(178)小節（バス）：上3声か5度を作っているところに入る第3音です。重すぎず、隙間に入れるイメージで。音量は控え目、しかし緩んだ声にならないよう注意してください。コツは1拍目裏の語尾ですと取めて上から入り直すとよいと思います。
- ・ 159(178)小節（アルト）：ソプラノに寄って行くGをお願いします。前のEから休符を挟んで上から入り直しましょう。
- ・ 160(179)小節（アルト・バス）：1拍目裏、2拍目裏はそれぞれ5度でハモります。アルトは1拍目裏のGを高め、バスは2拍目裏のCを高めに取ると安定します。次の小節ではFとGでぶつかりますのでその点もわかって歌いましょう。
- ・ 162小節（ソプラノ）：1拍目“gern”の“e”は明るい発音で。2拍目裏の“o”発音は暗めですが、響きが落ちないように、上の声で次のEに繋がるように歌いましょう。
- ・ 163(182)小節（バス）：2拍目からのG-E-Cはアルトとのハーモニーを1音ずつ決めるつもりで下りてきましょう。上顎のポジションを意識すると安定します。

- ・165(184)小節（バス）：2拍目のGが落ちやすくなっています。前のBと分けて、改めて上から入り直しましょう。また“e”の母音を前に出すイメージで。（余談ですが、このフレーズは全部“e”母音、また第1節以外は言葉が切れているので、基本的に入り直すことを意識できると良いかと思います）
- ・167(186)小節（アルト）：ここ2小節のB-A-B-Gはしっかりとピッチを保って歌いましょう。特に2拍目のAで落ちやすいので注意。
- ・169(188)小節（アルト・バス）：2拍目裏DとAの5度を決めましょう。アルトのAを高めに。表拍とフレーズを分けて入り直すことがポイントです。バスは次の小節のEに上がる時にアルトとの3度を決められるよう、アルトに寄り添いましょう。
- ・172小節（ソプラノ）：2拍目の“ihn”、次の小節の“nicht”の“i”の響きが落ちないように。また、2拍目のコンマは切れすぎないようにフレージングしてください。

★Trost der Erlösung (wq 208.1)

この曲は3声ということで、バスはテノールの役割もしています。全体的に（低い音も含めて）第4のポジション、頭のでっぺんから声を出すイメージで歌いましょう。また、アルトは張りのある裏声で、前に声を出すことを常に意識して歌いましょう。特に“e”母音が暗くなりやすいので注意してください。

- ・2小節（バス）：1拍目裏、下のGもあえて頭のでっぺんから声を出します。軽い声で歌いましょう。
- ・2小節（アルト）：1拍目裏のHがソプラノのCにつられて上ずりやすいので注意。4拍目、上のCは下からずり上げない。張りのある裏声ではっきりと出しましょう。

備考

■ [冒頭へ](#)

月初の練習日に移動

2021年3月31日（水）

練習箇所

Carl Philipp Emanuel Bach
・Zwei Psalmen von C.P.E.Bach

記事

全体発声：52分

<内容>

★Zwei Psalmen (Der 4.Psalm : Wq206)

<2番>

- ・13小節：“Der”は長母音で。
- ・22小節：“erhöre”の“ö”は長母音なので、口を狭めて発音する。
- ・23小節：“bet”は短い音符ですが、長母音にしてください。
- ・26小節：“fleht”の“f”は前に出す。（直前の“fe”をなるべく短くする）

<9番>

- ・110小節：“Frieden”の後のコンマを意識してフレーズを作る。
- ・113小節：“meiner”が一つの言葉に聞こえるように。音符一つ一つを歌いなおさないように。
- ・115小節（高声部）：Fの音に的確にピッチが当たるように。

★Zwei Psalmen (Der 2.Psalm : Wq205)

<1番>

- ・全体的に言葉のアクセント部分が音楽の強拍に合致しているので、それを利用してメリハリをつけて歌いましょう。

- う。
- ・15小節："frevelhaften"が一つの言葉に聞こえるように。また強拍を長めに。
 - ・16小節："Gri"は「グリ」と分けて、同時に発音します。
 - ・16,17小節："doch"の"do"は明るく発音しましょう。上顎か、鼻の付け根のポジションを使うといいです。

<2番>

- ・厳しいお達しということ意識して歌い出しましょう。
 - ・25小節：（上3声）語尾の"ge"が強拍、かつ長い音符ですが、強くならないように。母音の色を曖昧にして歌う。
 - ・26小節：ハーモニーを意識しましょう。
 - ・28小節：（バス）Gの音がソプラノのCと4度と融合しにくい音程ですが、しっかりと当てましょう（ソプラノがHに動いた時に、きれいに響きます）
 - ・33小節近辺：（バス）難しいメロディラインだが、ハーモニーの重要な土台を作っているので端正に歌いましょう。また"Götter"の後にコンマがあるので、フレーズを分けましょう。
 - ・31小節：（バス）2拍目を他のパートの4分音符とタイミングを合わせましょう。1拍目が間延びしないように。
 - ・37小節：（バス）1拍目はフレーズの最初なので、上から入り直しましょう。
- ・来週はDer 2.Psalmの9、10番、Vier Motettenを練習する予定です。

備考

[冒頭へ](#)

月初の練習日に移動

2021年3月24日（水）

練習箇所

全曲

記事

2ヶ月半ぶりに練習再開しました。感染対策に留意しながら練習を進めていきます。
全体発声：35分

<内容>

最初に思い出すために全曲通して歌い、その後Der 4.Psalmを練習しました。

Zwei Psalmenは以下の通り歌います。楽譜に付箋をつけるなど、各自工夫をお願いします。

- ・Der 4.Psalm (Wq206)：第1節、第2節、第9節
- ・Der 2.Psalm (Wq205)：第1節、第2節、第9節、第10節

全体を通じた注意として、特に男声で内切りが徹底されていません。久しぶりに対面で練習したので感覚取り戻すのに時間かかるかも知れませんが、意識して練習していきましょう。

★Zwei Psalmen (Der 4.Psalm)

- ・言葉が生きるような抑揚をつけて歌いましょう。
- ・最初の"Wenn"は軽く、次の1拍目をしっかりと。"ich"の"-ch"の時間を作って"zu"へ。ここも次の"dir"に向かいます。
- ・4小節："flehe"の"f"は前に出しましょう。
- ・6小節：1拍目裏から1つのフレーズで。
- ・9小節：2拍目の"Fr-"は前に出し、拍頭は母音に来るようにします。

- ・10小節："-keit"二重母音で忙しいですが内切りで揃えましょう。2拍目の"w"は有声子音です。前から鳴らして重みを置くようにします。
- ・11小節：2拍目"rufe"語尾の"-e"は曖昧母音です。「エ」にならないように。また低声部は音が上がるので飛び出ないように気をつけてください。語尾らしく軽く収めて、次の"s[z]"を前に出します。
- ・第2節は最初2小節のフレージングが変わります。15小節は最後"machst"まで歌ってフレーズが切れるので注意。
- ・その後も、休符の前の語尾内切りは要注意です。たくさん出てきますので確認をお願いします。

備考

- ♪練習予定表更新しています。日程・場所変更などありますので予定確認をお願いします。
- ♪来週は引き続きZwei Psalmenを練習します。

[冒頭へ](#)

月初の練習日に移動

2021年1月6日（水）

練習箇所

Carl Philipp Emanuel Bach

- ・ Zwei Psalmen von C.P.E.Bach
- ・ Vier Motetten

Johann Sebastian Bach

- ・ Lobet den Herrn (BWV230)

Johann Christoph Friedrich Bach

- ・ Wachet auf, ruft uns die Stimme

記事

全体発声：35分

<内容>

★Der 4.Psalm (Zwei Psalmen)

- ・最初にヴォカリーズで歌った後、全編を歌詞を付けて歌いました。
- ・メロディラインは楽譜を全部見なくても思い浮かべられるように。
- ・4番："Erkennt"の"E"が長母音にならないように。
- ・4番："angenommen"が一つの言葉に聞こえるよう、フレーズを意識して歌いましょう。

★Der 2.Psalm (Zwei Psalmen)

- ・まずハーモニーを意識しながらヴォカリーズで歌いました。
- ・テノールの歌い出しの音（階名レ）：ソプラノの旋律「ドーミーソ」に続いて高い「ド」を歌って歌い出しの音「レ」に繋げる。
- ・バスの3小節目：「ファーシーシ」と考えると歌いやすくなる。
- ・歌詞を付けて全編歌いました。

★Vier Motetten

- ・それぞれ通して歌いました。
- ・Bittenの44小節～を最後にもう一度歌いました。まだまだ歌えていないので、各自で練習をお願いします。

- ★Lobet den Herrn (BWV230)
- ★Wachet auf,ruft uns die Stimme (1、2楽章)
 - ・それぞれ通して歌いました。

備考

♪来週から2月第1週まで練習はお休みです。

[冒頭へ](#)

[月初の練習日に移動](#)

2020年12月23日 (水)

練習箇所

Johann Christoph Friedrich Bach
・Wachet auf,ruft uns die Stimme

記事

全体発声：46分

※発声練習後に先生から純正律の和音についてお話がありました。なるべくピアノに頼らずハモリを感じられるよう練習していきましょう。

<内容>

★Wachet auf,ruft uns die Stimme

一度全楽章をアカペラで通して歌いました。その後、3楽章の後半(411小節～)、2楽章の後半(181～325小節)を取り出して復習しました。

※最後に1楽章を歌いましたが、録音機の電池切れで112小節で切れています。申し訳ありません。

- ・181小節(バス・全員)：1拍目"Herz"は短く切って"tut"の時間を作りましょう。リエゾンNGです。"-z"と"t"を分けて発音します。また、2拍目"ihr" "fuer"は丁寧に発音してフレーズを作ります。ぶつ切れにならないように。
- ・417小節(バス)：4拍目裏の母音"i"は「イのようなもの」と思いましょう。「イ」にし過ぎると喉が締まって音が下がります。表拍の"u"も同様です。
- ・428小節(バス)：入りのEsは前のソプラノのメロディから続きます。427小節のソプラノを2オクターヴ下げて頭の中で歌っていると入りやすくなります。
- ・432小節(テノール)：ここの入りも前のソプラノから取ります。431小節のソプラノの出だしと同じ音になります。
- ・435小節(上3声)：このハーモニーは音が離れているので取り辛いですが、綺麗に決めましょう。3拍目でアルトがDに上がるところが鍵。子音"fi"でずり上げないように。

備考

♪来週はお休みで次回は来年1月6日です。C.P.E BachのZwei Psalmenを練習します。

[冒頭へ](#)

2020年12月16日 (水)

練習箇所

Johann Christoph Friedrich Bach
 ・ Wachet auf, ruft uns die Stimme

記事

全体発声：51分

<内容>

★Wachet auf, ruft uns die Stimme

第2楽章のAllegro (411小節～)、遡ってChoral (365～410小節) を練習しました。

《Allegro》

- ・ "sind" (バス) : 時々、"d"が「ト」になっている時があるので気をつけましょう。
- ・ 413小節 (アルト) : 押さえつけた感じの声ではなく、のびのびと浮遊した感じで歌い出しましょう。
- ・ 414小節 (テノール) : 朗らかに歌い出しましょう (鼻腔が開いて、顔の方から明るく声が出る感覚で)
- ・ 415小節 (テノール) : 8分音符のフレーズの歌い方を練習しました。音符一つ一つを細切れに歌うのではなく、フレーズ全体を流れるようにのびのびと歌いましょう。(他の同様のフレーズも)
- ・ 427小節 (バス) : 出だしの音は、直前のソプラノパートを1オクターブ下げて (頭の中で) 歌うと入りやすい。
- ・ 434小節 : 4拍目のハーモニーを練習しました。テノールはうなじのポジションを意識しましょう。開離和音なので、音を取りづらいかと思いますが、アルトの音下がっているのので、響きをよく聞いて歌いましょう。
- ・ 4分音符の"des sind wir froh" : 歌い出しの"des"は弱拍 (裏拍) なので、母音は短めに。ボールがバウンドしてすぐ地面から離れるイメージで。

「弱拍、強拍、弱拍、強拍」の抑揚をつけて歌う。

"froh"の"roh"が他のパートの"lo"と重なる箇所では、発音のタイミングが揃うように。

《Choral》

- ・ 379小節 : "zwölf"の"z"は一瞬前に出して"wö"が音符に乗るように。"Pforten"の"P" (382小節)、"Stadt"の"S" (385小節)、"Thron"の"Th" (392小節) も同様です。
 - ・ 380小節 (バス) : "Von"の"n"を意識して入れると、次の歌い出しの言葉"zwölf"のタイミングが合いやすくなります。
 - ・ 382～383小節 : 382小節のナチュラルで調が変わり、その調で383小節のフェルマータに入ります。ここの部分のハーモニーを気をつけて歌いましょう。(386～388小節も同様)
- テノールは383小節のフェルマータの高い音に入りやすいよう、直前のナチュラルは軽い声で歌いましょう。
- ・ 397小節 (テノール) : ワクワクした気持ちで伸び伸びと歌いましょう。
 - ・ 398小節 (テノール) : cの音をしっかり歌い込みましょう。
 - ・ 406～最後 (バス) : 一つの繋がったフレーズになるよう、歌いましょう。

備考

■ [冒頭へ](#)

月初の練習日に移動

2020年12月9日 (水)

練習箇所

記事

全体発声：46分

<内容>

★Wachet auf, ruft uns die Stimme

第2楽章を一度通して歌った後、第3楽章の内、410小節までを中心に練習しました。

・ "Gloria"が1つの言葉になるように。特に"a"を言い直しをしない。前の"i"からそのまま"ya"のようになってもいいので意識して繋げましょう。

・ "gesungen"の"u"の母音が絞まり過ぎるので、もっと広い"u"で。特に348小節の伸ばす音は要注意。

・ 342小節（バス）：3拍目が下から入らないように。上から決めましょう。

・ 344小節（バス）：リズムを正確に。

・ 347小節（バス）：1拍目裏のDの音を決めましょう。和音の第3音になります。

・ 349小節（テノール）：4拍目のDesは前のソプラノから取ります。ソプラノのEsを「ソ」と捉えて「ファ」のつもりで歌い出します。

・ 351～354小節（バス）：351小節3拍目から新しいフレーズが始まります。軽い声で綺麗に歌い出してください。

352小節のリズムを女声の動きに合わせてみましょう。353小節3拍目から4拍目は4度（B→Es）上がりますが、響きが下がりが気味にならないようスマートに。354小節3拍目表のタイは短めに取ってブレスし、後半の上昇音形を軽やかに歌います。

・ 352～356小節（テノール）：女声と手を携えて、特にリズム・テンポを合わせて動きましょう。352小節はアルトと、354～356小節はソプラノと一緒にです。他パートの声を意識的に聴けるよう練習してください。

・ 356小節：最後の和音を決めましょう。"a"の母音を柔らかく。

・ 358小節：前の小節から全員ユニゾンで歌い始め、1拍目のCをずり上げず上から入って決めましょう。

・ 359～361小節（ソプラノ、テノール）：ここは2声のデュエットです。それぞれ2拍目を決めるように。

・ 362小節（バス）：2拍目のDはしっかりぶつけに行きます。

・ 365小節からのコラールは2分の2拍子で振ります。

・ 394小節："hat"の"t"を軽くで良いので入れましょう。

・ 394～398小節（テノール（下3声共通））：4分音符の音は1つずつ区切らずに繋げて歌いましょう。スラーがかかっているイメージで。

・ 396小節："spuert"の"sp"は前に出します。

・ 399小節：ハーモニーを決めましょう。バスは上から入って来ます。アルトも上に吊り上げるよう意識しましょう。

来週は411小節からのAllegroから練習します。

備考

♪今年度の総会を無事開催しました。決定事項は別途ご連絡します。換気で寒い中、ご協力ありがとうございました。

■ [冒頭へ](#)

[月初の練習日に移動](#)

2020年12月2日（水）

練習箇所

記事

全体発声：44分

<内容>

★Wachet auf, ruft uns die Stimme

- ・ 2楽章を中心に練習しました。
 - ・ "Zion"の"Zi"が「チ」にならないように注意しましょう。
 - ・ 147小節："-gen"の"n"は音符として歌いきる。"n"が歌声として響いていないと、結果として音符が短くなってしまいます。(155小節、180小節も同様)
 - ・ 148小節～180小節：ブレスを取る場所について指示がありました。
長いフレーズである"singen"の前でブレスを取ります。テノールは別途、フレーズの途中でのブレスの位置についても指示がありました。(153小節の前、163小節の前、169小節2拍目裏の前、172小節2拍目の前等)
 - ・ 同じ音が長く続く時は細い声で歌い伸ばしましょう。
 - ・ 180小節 (バス)："das"はスマートに。例えて言うなら、桑を打ち込む前の振り上げたときの感覚。
 - ・ 195小節 (テノール)：入りのタイミングを練習しました。私の考えですが、直前の休符の付点8分音符を頭の中で音符があるものとして歌うと入りやすいのではと思います。
 - ・ 202小節～205小節 (男声)：ブレスを16分音符の直前に取る。
 - ・ 206小節 (バス)：1拍目裏の高音のfは上から入る。直前の低いfは軽い声で、かつ高音を出すポジションにしておく。
 - ・ 238小節 (バス)：2拍目：薄めの音色で。
 - ・ 245小節 (バス)："auf"は極めて短く。
 - ・ 249小節 (バス)："Licht"の"Li"がしっかり決まるように。
 - ・ 251小節 (テノール)：8分音符一つ一つが短くなり過ぎないように。
 - ・ 270～273小節 (バス)：半音ずつ上昇する音型をピッチをよく揃えて歌いましょう。また言葉を喋ると同じ音でもピッチが狂いやすいので注意しましょう。
 - ・ 293小節 (テノール)："a"の母音を上顎に引っ張り上げて歌いましょう。(三波春夫さんのような顔で)
- ・ 最後に3楽章を最後まで歌いました。
・ Choralの部分(365～410小節)は指示は書いてありませんが、2分の2拍子で歌うかもしれません。
・ 来週は3楽章も練習します。

備考

■ [冒頭へ](#)

月初の練習日に移動

2020年11月25日 (水)

練習箇所

Johann Christoph Friedrich Bach
・ Wachet auf, ruft uns die Stimme

記事

<内容>

★Wachet auf, ruft uns die Stimme

最初に第1楽章を復習しました。

- ・57小節（バス）：力まず軽快に歌いましょう。3拍目“auf”の“a”がパートの中で揃うように。
- ・60小節（バス）：オクターヴの難所。ここはバスのソロなので、3拍目“auf”を綺麗に決めましょう。2拍目裏は軽く、“wach”の“w”を良い声で鳴らします。この際、母音が入らないよう注意。また、“auf”の“a”に子音が入らないよう注意。
- ・80小節（バス）：4拍目はポルタメントが掛からないように。言葉の中ですが若干切れ気味でも構わないのでEの音を正しく当てにいてください。
- ・85～96小節の音と言葉を再確認するために、男声を中心に何度か練習しました。勘違いしていた箇所は各自確認をお願いします。
- ・全体：バスが95小節で注意を受けましたが、“stehet”の子音を前に出しましょう。発音は（母音はありませんが）「シュ」です。口がこわばると「ス」になりがちなので注意。
- ・95小節（バス）：4拍目の“stehet auf”を慎重に。3拍目の“auf”を短く切ってブレスを入れて丁寧に歌い直しましょう。
- ・96小節（バス）：3拍目の和音に注意。表拍はぶつかる和音ですが、裏拍で解決します。また、この裏拍から新しいフレーズに入るので、表拍の“nehmt”は短く切って次の“Hallelu-”をイントネーション良く入りましょう。階名だと「ドーミード」です。
- ・116～121小節（テノール）：音の動きを再度確認しておいてください。

後半の時間で第2楽章（140～325小節）の練習に入りました。

- ・156～165小節（バス）：ブレスの取り方について。157小節1拍目のあとにブレスを取り、159小節“singem”のあとはカンマがついているが流してそのまま歌い継ぐ。160小節“Wachter”のあとに軽くブレスを取って165小節まで歌う。
- ・180～181小節（バス）：180小節1拍目から次のフレーズに入る時に和音が変わることを掴みましょう。また、ここはアフタクトなので、軽く歌って次の“Herz”を決めましょう。
- ・181～184小節（全員）：“Herz”の歌い方。次の“tut”とは分けて発音したいため、付点8分音符を短めに切るように歌います。

最後に第3楽章の364小節まで歌って歌って終了となりました。次回は第1、第2楽章を中心に練習します。

備考

冒頭へ

月初の練習日に移動

2020年11月18日（水）

練習箇所

Johann Sebastian Bach

- ・ Lobet den Herrn (BWV230)

Johann Christoph Friedrich Bach

- ・ Wachet auf, ruft uns die Stimme

記事

全体発声：44分

<内容>

★Lobet den Herrn (BWV230)

- ・1回通して歌いました。

★Wachet auf, ruft uns die Stimme

- ・1楽章を練習しました。
- ・12小節（バス）：3拍目の語尾"-me"を重くせず、軽くすると、4拍目裏の高いEsを出す体のポジションが取りやすくなります。

13小節も同様に。言葉のアクセントの位置によって抑揚を付けると、歌らしく、また歌いやすくなります。

- ・49小節（バス）：滑らかに、優雅に歌います。
- ・52小節（バス）：1拍目裏のナチュラルが若干不安定になるので、気をつけましょう。
- ・62小節（バス）：4拍目の入りの音はソプラノの音に合わせて入りましょう。
- ・68小節（アルト）：2拍目dの音の当て方を練習をしました。1拍目は短く切って、素早く2拍目dの音を出すポジションに持っていきます。
- ・69小節（アルト）：フレーズの入り2拍目裏拍、3拍目はしっかり歌う。

- ・次週はWachet aufの1楽章、そして2楽章を練習する予定です。

備考

♪12月9日に総会を行う予定です。

[冒頭へ](#)

月初の練習日に移動

2020年11月11日（水）

練習箇所

Johann Sebastian Bach

- ・Lobet den Herrn (BWV230)

記事

全体発声：41分

<内容>

★Lobet den Herrn (BWV230)

58小節～98小節を中心に練習しました。

- ・59小節（全員）：1拍目“Gnade”の“G-”を前に出しましょう。拍頭は“-na-”が来ます。3拍目と4拍目の間はブレスせずフレーズを繋げます。（64～65小節、70～71小節も同様です）
- ・60小節（全員）：3拍目“-heit”は軽く短く切り、ブレスを取って女声が4拍目“wa-”と出ます。男声も女声と同じタイミングで切ります。残らないよう注意。（66小節も同様です）
- ・61～63小節（全員）：61～62小節の2小節かけて“waltet”の言葉を流れるように歌っていきませんが、このフレーズは63小節目の“ueber uns”を目指していくと考えて音を前に進めましょう。滞らないように注意。（67～69小節も同

様です)

- ・63小節（全員）：3拍目“uns”も内切りで全パート揃って語尾の子音を発音します。残らないように注意。（69小節も同様です）
- ・70小節（バス）：1拍目の“sei-”子音[z]の弊害もあり、音が下にいきやすくなります。和音を意識し、裏声主体の声で注意して上から入りましょう。
- ・72小節（男声）：テノールは1拍目表のタイで繋がった音を端折らない。2拍目から男声と一緒に動きます。2パートで縦を揃えることを意識し、冷静に通過してください。
- ・73～74小節（テノール）：女声と掛け合いになっていることを意識しましょう。2拍目、4拍目の四分音符のタイミングを女声と揃えて走らない。
- ・81小節（バス）：4拍目裏のBの音が重くならないように。ポイントは母音の色。「デ」にはなりません。曖昧母音で語尾ですから『軽く添えるだけ』ということ意識して通過してください。
- ・84小節（バス）：前の小節から2拍分タイで結ばれているところが間延びしやすいので注意しましょう。
- ・86小節（バス）：4拍目が滞りやすいので注意。ここは4拍目、且つ語尾ですので入れ込まず、軽い声で先に進みましよう。
- ・87～88小節（バス）：2拍目裏からの“waltet”が間延びしやすいので注意。2拍目裏と4拍目裏のタイで結んでいる音が延びると思われるので、流れていくように意識して歌いましょう。
- ・93小節（バス）：3拍目の“-keit”が長いです。『語尾らしく、軽く短く』を徹底しましょう。（94小節、98小節も同様です）
- ・94小節（バス）：1拍目と4拍目裏のDの音が曖昧になっています。何度か練習して安定してきましたが各自再度確認をお願いします。

備考

冒頭へ

月初の練習日に移動

2020年11月4日（水）

練習箇所

Johann Sebastian Bach

- ・ Lobet den Herrn (BWV230)

記事

全体発声：44分

<内容>

★Lobet den Herrn (BWV230)

24小節～98小節を中心に練習しました。

- ・（全体）：24小節3拍目裏のように8分音符2つに「-set ihn」の言葉が付く時に、「set」が重くならないように。また語尾である事を意識し曖昧母音で歌う。
- ・（全体）：「über」、「Völker」の語尾が開きすぎて「アー」にならないように。最後の“r”を少し巻くと開きすぎるのを矯正できる。
- ・24小節3拍目（ソプラノ）：裏拍gは不協和音で歌いにくいがおでこ、鼻の付け根を使って明るい音色で歌う。（4拍目aも同様）
- ・61～62小節（テノール）：1拍、3拍をアルトに合わせるつもりで歌うとテンポが安定する。

- ・62小節（テノール）：gisの響きが暗くならないように（おでこの方から出すイメージで）。
- ・69小節（テノール）：休符後のcisは、アルトのcisから取る。
- ・70小節（テノール）：「sei-」は上の響きで。
- ・73小節（テノール）：1拍目は短めにして（4分音符くらいでも）、ブレスを取る。2拍、4拍を女声と合わせるようにすると安定する。
- ・87小節（テノール）：3拍目裏の8分音符の動きが半音にならないように。
- ・89小節（バス）：上顎に集まった声で歌う。音量はあまり必要ありません。
- ・93小節（バス）：2拍目fisは、92小節4拍目からG-durに転調していることを意識して歌う。

備考

冒頭へ

月初の練習日に移動

2020年10月28日（水）

練習箇所

Johann Sebastian Bach

- ・Lobet den Herrn (BWV230)

記事

全体発声：45分

<内容>

★Lobet den Herrn (BWV230)

24小節～58小節を中心に練習しました。

- ・全体：8分音符で言葉を言う箇所（“preiset ihn, alle,”の“-set ihn” ex.ソプラノ・テノール30小節、アルト・バス36～37小節など）が音がすべって詰まりやすくなっています。慌てず丁寧に歌いましょう。
- ・25小節（アルト）：はつらつと歌い出しましょう。ここは和声的に若干不自然な箇所のため、思い切って出ることを意識すると上手く通過できます。
- ・40小節（バス）：2拍目裏のGis-Fisの音が不安定になっています。丁寧に通過しましょう。
- ・42小節（バス）：4拍目表のHが時々上ずるので注意。
- ・47小節（テノール）：4拍目は「ミレドシ」と感じて歌います。最後のFisがFナチュラルにならないように注意。
- ・48小節（テノール）：3拍目のGisが時々Gナチュラルに外れます（前（2拍目裏）のGisはOK）。言葉がつくことも原因の1つかも知れません。滑らかに繋げて歌うと音が落ちすぎずに通過できると思います。
- ・50小節（アルト・バス）：両パートともに“prei”の最初の拍のHが上がり切っていません。全音上がることを意識して丁寧に通過してください。
- ・52小節（テノール）：3拍目裏のGが乱雑になりやすいので注意。この音は直前51小節3拍目の音と同じであることを意識するように。
- ・54小節（アルト）：2拍目、3拍目の音の動きが曖昧になっています。上下の跳躍をしっかりと。（先生のお話にありませんでしたが、裏拍のDと下のGはテノールの下に潜る形になります。そこも意識して正しい音で通過してください）
- ・55小節（アルト）：1拍目裏のH、2拍目裏のEも正しい音程で通過できるように繰り返し練習しましょう。
- ・55小節（テノール）：前の休符を活かし、快活に声を出し始めます。下降音形がすべりやすいので慌てず冷静に。

備考

♪ 来週11/4(水)から練習開始時刻が変更となります。18:30を目途にお集まりください。

冒頭へ

月初の練習日に移動

2020年10月21日 (水)

練習箇所

Carl Philipp Emanuel Bach Vier Motetten (Wq 208)

- ・ Trost der Erloesung (wq 208.1)
- ・ Die Menschenliebe Jesu (wq 208.4)

Johann Sebastian Bach

- ・ Lobet den Herrn (BWV230)

記事

全体発声：37分

<内容>

★Trost der Erloesung (wq 208.1)

※歌詞が異なると事情が変わってくる場所もありますが、全節同様の注意です。確認をお願いします。

- ・ 1小節（男声）：高い音域のメリスマを綺麗に通過するために、最初のHの音を裏声と重なったところからスタートします。
- ・ 2小節（男声（バス））：1拍目裏、下のGは軽い声で歌い、2拍目の上のGを正しいピッチで戻りましょう。
- ・ 4小節（女声）：1拍目裏のピッチが下がりやすいので注意。特に4小節“-denken”、34小節“danken”の“n”で終わる言葉の時におじぎしがちなので、上で保ちましょう。また、語尾は曖昧母音です。「ケン」とならないように。
- ・ 5小節：“Also”の“o”の母音は開きすぎないように。少し口を狭めて『集めてくる』ようなイメージで。
- ・ 5小節（アルト）：1拍目G、2拍目G-Hのピッチを注意深く取る。1拍目裏のDを軽く歌うことがコツ。1拍目のGは前のFisから移る時に下からずり上げず、上から綺麗に入りましょう。
- ・ 6小節（アルト）：1拍目裏G-Fis-Eは「ドーシーラ」と感じて歌います。1音ずつ確かめながら切り気味に歌ってしまうと逆に下に落ちやすいので、繋げて1つの言葉として歌うよう意識する。どちらかというポルタメント気味で。

★Die Menschenliebe Jesu (wq 208.4)

一度通して思い出しました。

- ・ 7小節：3～4拍目、特に4拍目の和音の動きを全員が感じながら、ハーモニーを作ることを意識しましょう。特に男声の4拍目E-C、アルトの4拍目裏Aを注意。

★Lobet den Herrn (BWV230)

2回ゆっくり通して思い出しました。

- ・ 2～3小節（女声）：ソプラノ2小節、アルト3小節のそれぞれ2拍目“-bet den”、8分音符の後の方の響きを丁寧に。子音が入ることで音の響きが無くなってしまいう傾向にあります。子音を発音しつつ、メロディラインがあるように。

備考

♪ 練習予定表を配信しています。紙印刷ご希望の方は事務局へお申し出ください。

♪ 来年2月11日（木祝）はいつもの練習場所で臨時練習を行います。全体練習は13：35～16：50です。予定に入れておいてください。

2020年10月14日（水）

練習箇所

Carl Philipp Emanuel Bach Vier Motetten (Wq 208)

- ・ Die Menschenliebe Jesu (wq 208.4)
- ・ Trost der Erloesung (wq 208.1)

記事

全体発声：32分

<内容>

★Die Menschenliebe Jesu (wq 208.4)

- ・ 冒頭～4小節までが1つのフレーズになるように。
- ・ 1小節：1～2拍目は不協和音です。3拍目にやっと協和音に落ち着くことを意識して歌いましょう。3拍目“a”の母音が崩れないように注意（5小節4拍目も同様）。4拍目男声はずり上げないように。
- ・ 2小節（男声）：2拍目Gは綺麗に下りましょう。同じ音形の箇所（ex. 6小節）も同様に。出し難い場合は無理をしない。
- ・ 7小節：3拍目“gegen”第1音節の“e”は長母音です。
- ・ 18小節：4拍目から次の小節1拍目へは和音の動きに注意して丁寧に歌う。
- ・ 19小節：1拍目“eilst”は語尾に子音が多くあり且つカンマがついているため、母音が長すぎないように注意。
- ・ 24小節（男声）：4拍目は表拍女声は休符です。拍頭からしっかり出てください。
- ・ 31小節：3拍目“Froehlichen”はシラブルが3つに分かれている。最後の“-chen”は1拍目（強拍）に当たるが語尾のため、語尾らしく収めて歌う。そういった言葉が多く出てくるので注意要。（ex. 33小節“Weinenden”、38小節“Redlichkeit”など）
- ・ 32～34小節（男声）：32小節4拍目から34小節3拍目までのフレーズが難所。並行箇所の38～40小節も同様。32小節4拍目Cisから次のCナチュラルへの動きは注意が必要です。Cの音が安定できるよう丁寧に歌いましょう。その先2拍目はB、全音下ります。3～4拍目に低い音を歌ってから34小節1拍目でDis-Eと上がります。ずり上げにならないよう注意。
- ・ 33小節：“Weinenden”第2音節および第3音節の“e”は曖昧母音です。『ネンデン』とならないように注意。
- ・ 34小節：“klagen”頭の“k”は無声子音です。『クラー』とならないように注意。
- ・ 34小節（男声）：4拍目から文節が変わります。跳躍が大変なので、前の拍は語尾らしく軽く短く取り、高いDの音を準備して出しましょう。女声との音も近いので、重い声にならないように。
- ・ 55小節（男声）：前の小節のBからの下降音形が不安定になりやすいので注意。3拍目のGまで綺麗にたどり着けるように。音量もp（ピアノ）です。アンザッツ3bを上手く使って裏声の枠の中の表声で出しましょう。
- ・ 55小節：1拍目“wird”の語尾の[t]が『ト』にならないように。“i”の口のまま[t]を発音すると母音がつかずに発音できます。
- ・ 59小節：“Liebe”の語尾も曖昧母音で。『リーベー』とはならないよう、1拍目を長めに、2拍目で収めるイメージで。
- ・ 60小節：“hoehen”の最後は、曖昧母音で語尾らしく短めに。

★Trost der Erloesung (wq 208.1)

一度通した後、言葉をきちんとと言えるようゆっくりしたテンポで再度通し、その後男声中心に復習しました。

- ・ 1小節（男声）：細かい音符を焦らず落ち着いて歌いましょう。
- ・ 2小節（男声）：1拍目裏、下のGは届かない場合は無理して出さないでOK。
- ・ 14小節：“Dies”“bin”“ich”と“i”の母音が続きます。口を縦に開けてあまり『イー』となり過ぎないように。特に男声の“bin ich”が上のCで歌うので注意要。
- ・ 36小節：“Wie sollt uns der,”の“der”は長母音でしっかり、次の“der”は短母音で軽く。差がわかるように。

・36小節（男声）：3拍目裏のFの音を丁寧に通過する。声に力が入らないように歌いましょう。

備考

♪来週はVier Motettenを全体的に復習し、進めたらLobet den Herrnに入ります。

♪先生が休憩時間にドイツ語の発音の話をしてくださっています。録音にも入れているので参考にしてください。

■冒頭へ

月初の練習日に移動

2020年10月7日（水）

練習箇所

Carl Philipp Emanuel Bach Vier Motetten (Wq 208)

- ・Bitten (wq 208.3)
- ・Der Kampf der Tugend (wq 208.2)
- ・Die Menschenliebe Jesu (wq 208.4)
- ・Trost der Erloesung (wq 208.1)

記事

全体発声：30分

<内容>

★Bitten (wq 208.3)

- ・31小節：ウーウムラウトの発音に注意。「イ」になり過ぎないように。
- ・39小節（ソプラノ）：3拍目を上手に通過しましょう。単語の中ではあるが1～2拍目と3拍目を分けて考える。3拍目裏のAは次の小節に繋がる音と捉える。表拍のFisに重きを置き、裏拍は軽くして次に繋げるように歌う。
- ・41小節（アルト）：1拍目Cは躊躇せず思い切って上から出す。
- ・43小節：“werden”の“e”は長母音です。アルトのEisの音が難しいので和音を意識して確実に下りる。
- ・52小節（アルト、バス）：3拍目の“und”は軽く短く。母音で引きずらないこと。
- ・53～54小節：“selbst”の単語は“-bst”が無声子音です。1拍ですべて言い切るため、母音が長すぎないように注意。
- ・54小節（バス）：3拍目のAisはハーモニーの中で取れるよう意識する。下り過ぎないように。
- ・59小節（アルト）：1拍目の付点4分音符は伸ばしている時にちょっと引いてスリムに。重心は次の16分音符にかける。
- ・60小節（バス）：入りの音を何度か練習しました。ソプラノもしくは通低のEからハーモニーを想像して入りましょう。
- ・65小節（アルト）：1拍目Eの音は裏声主体の声で入る。そうしないとその先の上昇形が上がり切らなくなるので注意。3拍目裏G、次の小節の3拍目Aは軽やかに上から入りましょう。
- ・68小節（女声）：語尾の“m”のタイミングを揃えましょう。
- ・77小節（バス）：1拍目表で通低が出しているHにつられるので要注意。その前の小節でGが鳴るのでそこから取る。

★Der Kampf der Tugend (wq 208.2)

一度通してから、32小節のバスの入りを再度練習しました。先週まで細かいところを練習していますので、忘れない内に復習をお願いします。

★Die Menschenliebe Jesu (wq 208.4)

★Trost der Erloesung (wq 208.1)

一度通しました。

備考

♪ 来年の演奏会日程が確定しました。2021年10月10日(日)が本番、6日(水)夜、9日(土)午後がオケ合わせとなります。予定に入れておいてください。

♪ 来週は4曲目を中心に練習します。Vier Motettenの次はLobet den Herrnに入ります。

冒頭へ

月初の練習日に移動

2020年9月30日 (水)

練習箇所

Carl Philipp Emanuel Bach Vier Motetten (Wq 208)

- ・ Der Kampf der Tugend (wq 208.2)
- ・ Bitten (wq 208.3)

記事

全体発声：20分（内、6分は団内練習）

<内容>

★Der Kampf der Tugend (wq 208.2)

- ・ 16小節～（女声）：全体的にp（ピアノ）の箇所を歌う時、中音域はアンザッツ3b（上顎）、高音域はアンザッツ4（頭のとっぺん）のポジションを主体にすると良い。
- ・ 21小節（アルト）：5拍目Aisは張りのある裏声で上から音を取る。29小節1拍目も同様。
- ・ 23小節（アルト）：3拍目“-ben”は「エ」ではなく、曖昧母音で上の響きを維持する。24小節4拍目“-den”も同様。
- ・ 30小節：変化した調に慣れること。アルトのAの音が鍵。通奏低音のFを意識して和音の中に入れてみましょう。
- ・ 32小節～（男声）：発音を全体的に曖昧にすることで日本語ぽさを回避しましょう。例えば32小節出だしの“Du”が固まった感じにならないように。また、33小節3拍目“-test”は「テ」ではなく曖昧母音です。
- ・ 35小節：1～2拍目“drum muss”の“m”は繋げてOK。但し、2拍目語頭の“m”をしっかり出すこと。5拍目と6拍目の間でブレスし、次の“gelingen”が1つの言葉に聞こえるように。
- ・ 37小節：3拍目と4拍目の間のカンマでブレスをしっかり取り、その後はブレスなしで38小節まで歌い切る。
- ・ 41小節：バスの1拍目Cは、前の小節でテノールがCisを歌っているが引きずられないように。テノールの6拍目Hの音が落ちすぎないように。上の響きを保ったままで下りましょう。
- ・ 44小節：1拍目裏で“-t”をしっかり発音してから次の言葉に移ること。ブレスを入れても可。
- ・ 45小節：A-C-Disの響きに慣れましょう。特にテノールが難しいので、通奏低音とバスパートの響きに乗って歌えるよう練習しましょう。
- ・ 47小節：1拍目と2拍目の間でブレスを取り、“nicht”からフレーズの終わりまで歌い切る。特にテノールの48小節1拍目裏のEを上から取れるように配分すること。
- ・ 52小節（男声）：練習はしませんでした。4拍目は女声と同じく4分音符+4分休符に修正してください。
- ・ 53小節：2拍目の“-ch”をはっきり、全員で揃えて言いましょう。タイミングは録音を聴いて復習しておいてください。
- ・ 54小節（バス）：1拍目のEの音を柔らかく。4拍目、下のGを安定した音でキープする。ソプラノとぶつかるのでぶれないように。また二重子音“-gt”を早めに言い切って、次の“stets”を遅れないように。
- ・ 60小節（テノール）：6拍目は音量よりタイミングを正確にする方を優先する。次のGの音を決められるように意識を持って行く。
- ・ 61小節（バス）：テノールの1拍目を聴いて、2拍目にタイミングを合わせてオクターヴ下のFisで入る。強弱記号

はffだが“a”の発音が雑にならないように。裏声の入ったソフトな声で入る。

★Bitten (wq 208.3)

- ・冒頭：“Gott,”カンマを意識して、フレージングすること。
- ・28小節（男声）：3拍目を安定して出られるよう、1拍目は短めに切る。・32小節：2拍目と3拍目の間で大ブレス。その後36小節までブレスなしで1つのフレーズにする。
- ・34小節：3拍目“-ser”若干「エ」になりがち。曖昧母音にしましょう。
- ・112小節：男声は112小節と113小節の間でブレスしてOK。※女声はタイで結ばれているのでNGです。

備考

♪来週は3曲目を中心に練習します。

♪練習開始時刻を19:00からに変更しています。詳細メールで連絡しますのでお間違えのないようお願いします。

■[冒頭へ](#)

月初の練習日に移動

2020年9月23日（水）

練習箇所

Carl Philipp Emanuel Bach Vier Motetten (Wq 208)

- ・Der Kampf der Tugend (wq 208.2)

記事

全体発声：27分

<内容>

★Der Kampf der Tugend (wq 208.2)

- ・1小節（アルト）：3拍目Cisの音はハーモニーの要です。上から清潔に取りましょう。3小節1拍目、7小節1拍目も同様です。
- ・2小節（ソプラノ）：装飾音符は32分音符のイメージで1音ずつ和音の中にいることを意識して歌う。装飾部分は綺麗にハマり正規のFisでぶつかることを認識しておくこと。
- ・4小節（バス）：4, 5拍目の“-deln”を丁寧に。
- ・9小節：2拍目“ist's:”は全員で語尾を揃えてブレスを取る。13小節5拍目“selbst:”も同様です。複数の子音を全部発音してブレスを取るのも母音をのぼし過ぎないように。“:(コロン)”があるため、後にすき間ができるイメージで。
- ・10小節（バス）：1拍目Disの音を丁寧に音取りすること。
- ・12～13小節（下3声）：4拍目“-te”を軽く短く取って5拍目から気持ちを新たに“Doch”に入り直す。6拍目はドミソの和音を感じて通過すること。続く“Doch”と次の“richte”は繋がらないように。一旦“Doch”で終わって改めて“ri-”の音を正確に取り直す。
- ・16小節：4拍目“-te”は軽く短く終わって語尾にすること。
- ・17～18小節（アルト）：17小節4拍目からの上昇音形はソプラノとよくハモらせる。6拍目でユニゾンになり、その後Hのピッチをキープ。
- ・20小節：4拍目“-den?” ここも語尾。軽く短く。24小節も2拍あるが語尾だと意識して歌う。
- ・22小節（アルト）：2拍目のCを丁寧に音取りする。発音が変わることでピッチが崩れないように。
- ・44小節：“Brot”の語尾の“t”をはっきり揃える。また次の“begehrte”の発音をきれいに。語尾“-te”は曖昧母音です。
- ・46小節：4拍目“sein,”ここで文節が変わるので短めにしてブレスを取り5拍目を歌い直す。
- ・48小節：1拍目バスのGisはハーモニーの中に入れるよう注意する。4拍目“-te!”軽く短く語尾にすること。

備考

♪来週はこの曲の続きおよび第3曲目も練習します。

■ [冒頭へ](#)

月初の練習日に移動

2020年9月16日（水）

練習箇所

Carl Philipp Emanuel Bach Vier Motetten (Wq 208)

- ・ Trost der Erlösung (wq 208.1)
- ・ Der Kampf der Tugend (wq 208.2)

記事

全体発声：23分

<内容>

★Trost der Erlösung (wq 208.1)

(小節番号は第1節(1~10小節)で記載しますが以下同文です)

- ・ 冒頭：歌い始めは16分音符です。男声で時々8分音符になってしまうことがあるので注意しましょう。
- ・ 1小節：1拍目アルトの入り“-dan-”と男性の“der”のタイミングをお互いが合わせることを意識して入る。3拍目ソプラノとアルトも同様。
- ・ 1小節（男声）：細かい音符が走りがちになります。落ち着いて他と合わせるように。
- ・ 3小節（アルト）：ピッチをキープできるように支えをしっかりとすること。
- ・ 4小節：1拍目裏のハーモニーを全員で感じて丁寧に終わる。語尾だからといって疎かにならないように。
- ・ 5小節（男声）：3拍目のEを綺麗に決める。またその裏拍はオクターヴ下のEに下りるが、ここで声が乱暴にならないように。

※男声はオクターヴの跳躍が多く出てくるため他の箇所も要注意。(ex.2小節1拍目、6小節1拍目など)

- ・ 6小節（アルト）：1拍目裏のFisを正確に通過する。G-durの音階を意識すること。
- ・ 10小節（男声）：2拍目裏から次の節になります。2拍目の譜面上は付点8分音符で譜記されていますが、8分音符+16分休符を入れて次の節を歌い出します。
- ・ 36小節：“Wie sollt uns der, der ihn geschenkt”のカンマ前後の“der”について、前半の“der”は関係代名詞のため長母音で発音、後半は冠詞のため短母音で発音します。

★Der Kampf der Tugend (wq 208.2)

- ・ 4小節（テノール）：4拍目“-deln”は女声と同じく4分音符+4分休符で歌います。
- ・ 9小節：2拍目“ist's:”は全員4分音符+8分休符として語尾を揃えましょう。
- ・ 18小節（アルト）：この小節はソプラノが下降音形となっているのに対してアルトはずっとHです。ピッチをキープできるようにしっかり支えること。

備考

♪練習休止前(3月)から見学にいらしていたバスの中村さんが正式に入団されました。

■ [冒頭へ](#)

月初の練習日に移動

2020年9月9日（水）

練習箇所

Johann Christoph Friedrich Bach
・ Wachet auf, ruft uns die Stimme
Carl Philipp Emanuel Bach
・ Vier Motetten (Wq 208)

記事

5ヶ月半ぶりに練習再開しました。
感染対策に留意しながら当面の間は時間を短縮して練習します。

全体発声：24分

<内容>

今日は思い出すために練習箇所の2曲を通して歌いました。
次週から Vier Motetten を中心に練習を進めます。

備考

♪8月末で退団された柿沼団長が練習にお見えになり、冒頭にご挨拶をいただきました。
♪ Carl Philipp Emanuel Bach の Der 2. Psalm (Wq 205) と Der 4. Psalm (Wq 206) について、練習休止期間中に水野先生が2番以降の歌詞をつけた譜面を作成してくださいました。その印刷物を配布しています。

 [冒頭へ](#)

月初の練習日に移動

2020年3月25日（水）

練習箇所

★ Lobet den Herrn, alle Heiden
★ Wachet auf, ruft uns die Stimme

記事

全体発声：34分

<内容>

★ Lobet den Herrn, alle Heiden
・ 58～98小節：主に男声パートを丁寧にさらいました。
・ 69小節4拍目裏：裏拍ということ意識して、軽い声で歌う（特に男声）。ハーモニーが柔らかく充実した響きになるように。

・ 99～最後：パート別に丁寧にさらいました。

<アルト>

・ 143小節3拍目：「e」の母音を上顎のポジションで作ると張りのある声になる。また、141、142の低音も上顎のポジションを使うといい。

<テノール>

- ・133小節～：「alleluja」という言葉が一つのメロディになるように角を付けずに歌う。

<バス>

- ・120小節からのメリスマは軽やかな声で歌う。
 - ・133小節：フレーズの入りは"fis"ですが、この小節ではシャープが付いていないので注意しましょう。
 - ・134小節：1拍目の"a"は響きが上に上がるようなポジションを思い出して歌いましょう。
- ・最後に全曲通して歌いました。

★Wachet auf, ruft uns die Stimme

- ・365小節～最後まで通して歌いました。

次回の練習では、引き続きLobet den Herrn、そしてWachet aufも練習します。

備考

来週の練習はお休みになりました。

[冒頭へ](#)

月初の練習日に移動

2020年3月18日（水）

練習箇所

★Vier Motetten

★Lobet den Herrn, alle Heiden

記事

全体発声：50分

<内容>

★Vier Motetten

・Bitten

・1回通して歌った後、77～80小節（男声パート）のフレーズの入りの音、及メロディに慣れるための練習をしました。

・Die Menschenliebe Jesu

・1回通して歌った後、アルトの52小節4拍目からのフレーズのピッチがハーモニーに入るよう練習しました。他の同型フレーズの箇所も下がっているので注意しましょう。

★Lobet den Herrn, alle Heiden

・58～98小節を丁寧にさらいました。

・"über"の発音："ü"は「イ」になり過ぎないように。語尾は開き過ぎないように（"ü"より口が開かないように）。

・65小節2拍目アルト：響きが変わらないよう、滑らかに歌う。

・最後に全曲を通して歌いました。

備考

2020年3月11日（水）

練習箇所

- ★Vier Motetten
- ★Lobet den Herrn, alle Heiden

記事

全体発声：55分

<内容>

★Vier Motetten

- ・ BittenとDie Menschenliebe Jesuを、それぞれ1回通して歌いました。

★Lobet den Herrn, alle Heiden

- ・ 1～32小節を主に男声パートを丁寧にさらいました。
- ・ テノール：高い音は表声で張り上げるのではなく、裏声に切り替えましょう。また、低い音も軽やかに。特に高い音から降りた時は、重くなりやすいので注意しましょう。
- ・ ベース："lobet"の"e"の発音が平べったくならないように。
- ・ 最初の4分音符のフレーズは1音ずつ刻まず、舞うように軽やかに歌いましょう。（このフレーズに限らず、全体的に軽やかに歌いましょう）
- ・ 23小節の"Heiden"：語尾のピッチがハーモニーに入るように。また、語尾に聞こえるよう、少し短く軽やかにする。

備考

2020年3月4日（水）

練習箇所

- ★Zwei Psalmen
- ★Vier Motetten
- ★Lobet den Herrn, alle Heiden

記事

全体発声：49分

<内容>

★Der4.Psalm

- ・ 1番～3番を歌詞を付けて歌いました。

★Der2.Psalm

・1番～2番を歌詞を付けて歌いました。

★Vier Motetten

・すべての曲を一通り歌いました。

・2曲目 (Der Kampf der Tugend) 60小節：アルトの"Ein"は上顎のポジションを使って歌う。

★Lobet den Herrn, alle Heiden

・1～58小節を丁寧にさらいました。

備考

冒頭へ

月初の練習日に移動

2020年3月1日 (日)

練習箇所

全曲

記事

全体発声：63分

<内容>

★Zwei Psalmen(Der4)

・最初、1番の歌詞を思い出し練習し、ヴォカリーゼでメロディを頭に入れたところで、歌詞を見て2番、3番を歌う練習をしました。

音節の区切り方は1番と一緒にするので、自習の際はリズム読みしながら馴れると良いと思います。

★Zwei Psalmen(Der2)

・こちら、最初1番の歌詞を思い出し練習し、ヴォカリーゼでメロディに馴れる練習をしました。2番以降の歌詞付けは次回以降となります。

★Vier Motetten

1曲ずつ何度か通して歌いました。

・Der Kampf der Tugend

16～32小節 女声、32～48小節 男声、それぞれゆっくり確認しました。

アルトは、20～21小節のAis、Hの音を上から取ると響きが安定します。

・Die Menschenliebe Jesu

まだ歌詞に慣れていないので、また次回練習します。

★Lobet den Herrn, alle Heiden

★Wachet auf, ruft uns die Stimme

それぞれ1度通して歌いました。

しばらく練習していないため、それぞれ忘れていたところがあったかと思います。

次回以降はこの2曲に焦点をあてて練習していきます。

[冒頭へ](#)[月初の練習日に移動](#)

2020年2月26日（水）

練習箇所

- ・ Vier Motetten (Wq 208)

記事

全体発声：53分

<内容>

★Vier Motetten (Wq 208)

- ・ Die Menschenliebe Jesu (wq 208.4)
 - ・ ヴォカリーゼで音とりをした後、歌詞を付けて歌いました。
 - ・ Angesicht (12小節) は"An+gesicht"なので、"g"は鼻濁音ではありません。
 - ・ Bedrängten (13小節) の"g"は鼻濁音です。
 - ・ Redlichkeit (38小節) の"Red"の"e"は長母音、"d"の発音は[t]です。
 - ・ 55小節3、4拍目（女声）の最初の8分音符は前打音です。
- ・ Bitten (wq 208.3)
 - ・ 男声パートの44～80小節、108小節～を練習した後、全員で全曲を歌いました。

備考

[冒頭へ](#)[月初の練習日に移動](#)

2020年2月19日（水）

練習箇所

- ・ Vier Motetten (Wq 208)

記事

全体発声：47分

<内容>

★Vier Motetten (Wq 208)

- ・ Trost der Erlösung (wq 208.1)
 - ・ 復習をしました。
 - ・ 4小節1拍目裏の8分音符は短すぎないように。アルトパートはピッチが下がっているので各自練習しましょう。

- ・ Der Kampf der Tugend (wq 208.2)
 - ・ 復習をしました。
 - ・ 62小節からのpp部分は上顎のポジションを使って歌いましょう。
- ・ Bitten (wq 208.3)
 - ・ 108小節からのアカペラ部分のハーモニーを重点的に練習した後、全曲を歌詞を付けて歌いました。
- ・ Die Menschenliebe Jesu (wq 208.4)
 - ・ 1番をヴォカリーゼで合わせて歌いました。

備考

冒頭へ

月初の練習日に移動

2020年2月12日 (水)

練習箇所

Carl Philipp Emanuel Bach
・ Vier Motetten (Wq 208)

記事

全体発声：44分

<内容>

★Vier Motetten (Wq 208)

- ・ Bitten (wq 208.3)
 - ・ 全曲をヴォカリーゼで音取りした後、1番を歌詞を付けて歌いました。
 - ・ 8小節 (アルト) : フレーズを感じて歌う。
 - ・ 17小節3拍目 (アルト) : 音価を感じて歌う。(20小節3拍目も同様に)
 - ・ 108小節~ : 声の音量は絞っても輪郭のはっきりした声で歌う。輪郭がぼやけるとハーモニーが崩れます。上顎、おでこ、頭のでっぺんのポジションを使って、細くてまとまった感じの声にする。

備考

♪ Wachet auf, ruft uns die Stimmeの序文、対訳、Vier Motettenの前書き、対訳が配布されました。

♪ テノールパートに見学の方がいらっしゃいました。

冒頭へ

月初の練習日に移動

2020年2月5日 (水)

練習箇所

Carl Philipp Emanuel Bach
・ Vier Motetten (Wq 208)

記事

全体発声：46分

<内容>

★Vier Motetten (Wq 208)

- ・ Der Kampf der Tugend (wq 208.2)
 - ・最初に全曲をヴォカリーゼで復習した後、歌詞を付けました。
 - ・16小節のピリオドは"?"に修正してください。
 - ・21小節の"Sklaven"の"v"は濁ります。(外来語)
- ・ Bitten (wq 208.3)
 - ・1番、2番、3番をヴォカリーゼで音取りしました。(3番はざっと)
 - ・65、66小節のトリル(ソプラノ)はできれば上の音から歌う。(前の音と同じため)
 - ・最後に全曲通して歌いました。

備考

♪

[冒頭へ](#)

月初の練習日に移動

2020年1月29日 (水)

練習箇所

Carl Philipp Emanuel Bach
・ Vier Motetten (Wq 208)
Johann Christoph Friedrich Bach
・ Wachet auf, ruft uns die Stimme

記事

全体発声：48分

<内容>

★Vier Motetten (Wq 208)

- ・ Der Kampf der Tugend (wq 208.2)
 - ・16小節～最後までヴォカリーゼで音取りしました。
- ★Wachet auf, ruft uns die Stimme
 - ・1楽章、2楽章を通して歌いました。

備考

2020年1月22日（水）

練習箇所

Carl Philipp Emanuel Bach

- Der 4. Psalm (Wq 206)
- Der 2. Psalm (Wq 205)
- Vier Motetten (Wq 208)

記事

全体発声：44分

<内容>

★Der 4. Psalm (Wq 206)

- 1番の歌詞で歌いました。

★Der 2. Psalm (Wq 205)

- 1番の歌詞で歌いました。

★Vier Motetten (Wq 208)

- Trost der Erlösung (wq 208.1)
 - 1回通して歌いました。

- Der Kampf der Tugend (wq 208.2)

- 1~48小節をヴォカリーゼで音取りし、最後に曲の最後まで通して歌いました。
- トリルはその音を揺らすだけで、上の音が正確に当たらなくてもよい。その際、喉は動いていないといけない。
- 10小節2拍目（ソプラノ）の装飾音符は16分音符でよい。

備考

2020年1月15日（水）

練習箇所

Carl Philipp Emanuel Bach

- Der 4. Psalm (Wq 206)
- Der 2. Psalm (Wq 205)
- Vier Motetten (Wq 208)

記事

全体発声：50分

<内容>

★Der 4. Psalm (Wq 206)

- ・曲全体のメロディを覚える練習をしました（歌詞の方を見て歌うことが目的です）。
- ・2番、3番の1～4小節に該当する部分の歌詞を付けて歌いました。

★Der 2. Psalm (Wq 205)

- ・先週の復習をしました。
- ・この曲も歌詞が10番まであるので、今後、Der 4. Psalmと同じくメロディを覚える練習をします。

★Vier Motetten (Wq 208)

- ・Trost der Erlösung (wq 208.1)
 - ・ヴォカリーゼで音取りした後、歌詞を付けて歌いました。
- ・Der Kampf der Tugend (wq 208.2)
 - ・1-8小節をヴォカリーゼで音取りしました。

備考

[冒頭へ](#)

月初の練習日に移動

2020年1月8日（水）

練習箇所

Johann Sebastian Bach

- ・Lobet den Herrn, alle Heiden

Carl Philipp Emanuel Bach

- ・Der 2. Psalm (Wq 205)
- ・Der 4. Psalm (Wq 206)
- ・Vier Motetten (Wq 208)

記事

全体発声：45分

<内容>

★Lobet den Herrn, alle Heiden

- ・99小節から最後まで、2パートずつ確認し、復習しました。

★Der 2. Psalm (Wq 205)

- ・ヴォカリーゼで音取りをした後、1番の歌詞をつけて練習しました。
- ・9小節ソプラノのトリルはつけて歌います。

★Der 4. Psalm (Wq 206)

- ・ヴォカリーゼで音取りをした後、1番の歌詞をつけて練習しました。
- ・7小節以降3箇所ついているトリルは全てつけて歌います。

★Vier Motetten (Wq 208)

・ Trost der Erlösung (wq 208.1)

・ 1～14小節まで、ヴォカリーゼで音取りしました。

備考

[冒頭へ](#)

月初の練習日に移動

2019年12月25日 (水)

練習箇所

Johann Sebastian Bach

・ Lobet den Herrn, alle Heiden

記事

全体発声：37分

<内容>

★Lobet den Herrn, alle Heiden

・ 99～126小節までヴォカリーゼで音取りをし、言葉を付けて歌いました。

・ 126～最後まで言葉を付けて音取りをしました。

・ 全曲を通して歌いました。

備考

[冒頭へ](#)

月初の練習日に移動

2019年12月18日 (水)

練習箇所

Johann Sebastian Bach

・ Lobet den Herrn, alle Heiden

Carl Philipp Emanuel Bach

・ Zwei Psalmen von C.P.E. Bach

記事

全体発声：34分

<内容>

★Lobet den Herrn, alle Heiden

・ 24～57小節まで2パートずつ確認し、全体で復習しました。

- ・58～98小節まで、ヴォカリーゼで音取りをした後、言葉をつけて練習しました。
- ・1～23小節までを1度通して思い出しました。

★Zwei Psalmen

- ・2声の曲は楽譜にはSoprano/Altoと書かれていますが、男女どちらでもペアリングが可能なため、全員で練習します。
- 2曲とも、ヴォカリーゼで1度歌ってみました。

備考

[冒頭へ](#)

月初の練習日に移動

2019年12月11日（水）

練習箇所

Johann Sebastian Bach
 ・ Lobet den Herrn, alle Heiden

記事

全体発声：37分

<内容>

★Lobet den Herrn, alle Heiden

- ・最初に1～58小節まで通して歌った後、先週練習した25～58小節の復習をしました。
- ・「völker」のウムラウトの発音を気をつけましょう。また語尾は明らかに「カー」とはならないように。発音しにくい場合は少し巻いてもいいです。
- ・58～77小節をヴォカリーゼで音取りしました。

備考

♪総会を行いました。

議題：役員の選出（保留、及び若干変更有り）、指導者の人選（今まで通り）、次回定演について、臨時練習について

♪臨時練習：3月1日（日）、7月5日（日）

♪お休み：7月8日（水）

♪練習時間変更：4月29日（水・祝）、5月6日（水・祝）、いずれも13時30分～。

[冒頭へ](#)

月初の練習日に移動

2019年12月4日（水）

練習箇所

Johann Christoph Friedrich Bach

- ・ Wachet auf, ruft uns die Stimme

Johann Sebastian Bach

- ・ Lobet den Herrn, alle Heiden

記事

全体発声：24分

<内容>

★Wachet auf, ruft uns die Stimme

- ・ 先週音取りした、3楽章の411小節～最後までを復習しました。
- ・ 2楽章（140～325小節）の復習をしました。

★Lobet den Herrn, alle Heiden

- ・ 先週音取りした、1～23小節までを復習しました。
- ・ 24～58小節まで、ヴォカリーゼで音取りをした後、言葉をつけて練習しました。

備考

次回（12/11(水)）20時頃から総会を行います。

[冒頭へ](#)

[月初の練習日に移動](#)

2019年11月27日（水）

練習箇所

Johann Christoph Friedrich Bach

- ・ Wachet auf, ruft uns die Stimme

Johann Sebastian Bach

- ・ Lobet den Herrn, alle Heiden

記事

先生が体調不良でお休みだったため、団員での自主練習となりました。

全体発声：17分

<内容>

★Wachet auf, ruft uns die Stimme

- ・ 3楽章の411小節～最後まで、ヴォカリーゼで音取りをした後、言葉をつけて練習しました。
- ・ 3楽章 Choral（365～410小節）の復習をしました。
- ・ 最後に1楽章（～139小節）を通しました。

★Lobet den Herrn, alle Heiden

- ・ 1～23小節まで、ヴォカリーゼで音取りをした後、言葉をつけて練習しました。

備考

2019年11月20日（水）

練習箇所

Johann Christoph Friedrich Bach
 ・ Wachet auf, ruft uns die Stimme

記事

全体発声：37分

<内容>

★Wachet auf, ruft uns die Stimme

- ・ 3楽章
 - ・ 326～364小節：言葉をつけて音を確認しました。
 - ・ 狭い母音「i」「u」は、工夫すると声が出やすくなり、揃いやすくなります。
 - ・ 365～410小節（Choral）：ヴォカリーゼで音取りをした後、言葉を付けて歌いました。
- ・ 2楽章の復習をしました。
 - ・ 語尾の「n」が音程のある音になりきっていないので、瘦せて聴こえてしまいます。それぞれの音程にのせて歌いましょう。
- ・ 3楽章の411～423小節をヴォカリーゼで音取りしました。
 来週はこの部分から練習します。

備考

2019年11月13日（水）

練習箇所

Johann Christoph Friedrich Bach
 ・ Wachet auf, ruft uns die Stimme

記事

全体発声：25分

<内容>

★Wachet auf, ruft uns die Stimme

- ・ 前回音取りした2楽章（225～325小節）に言葉をつけました。
- ・ 3楽章（326～364小節）までを言葉をつけて音取りしました。
- ・ 3楽章 Choral（365～410小節）は先に言葉をつけて全員で歌ってみました。
- ・ 1楽章（～139小節）の復習をし、最後に2楽章から3楽章（～364小節）を通しました。
 （途中レコーダーの電池切れで268小節までしか入っていません）

・なるべく楽譜から目を上げて、正しい姿勢で歌えるようにしましょう。

備考

[冒頭へ](#)

月初の練習日に移動

2019年11月6日（水）

練習箇所

Johann Christoph Friedrich Bach
・ Wachet auf, ruft uns die Stimme

記事

全体発声：35分

<内容>

★Wachet auf, ruft uns die Stimme

- ・ 2楽章（225～325小節）の音取りをしました。
- ・ 2楽章（140～224小節）に歌詞を付けて歌いました。

備考

[冒頭へ](#)

月初の練習日に移動

2019年10月30日（水）

練習箇所

Johann Christoph Friedrich Bach
・ Wachet auf, ruft uns die Stimme

記事

全体発声：43分

<内容>

★Wachet auf, ruft uns die Stimme

- ・ 第1楽章（～139小節）を復習しました。
- 最初に96～121小節、その後67～77小節を中心に繰り返し練習しました。
- ・ 第2楽章（～224小節）をヴォカリーゼで音取りしました。次回は言葉をつけます。

備考

- ・楽譜代6,000円は来週から集金開始します。月会費と合わせて支払いをお願いします。
- ・練習日程表を配布しました。
 - ・11月13日は3階の部屋で練習となります。
 - ・12月11日の休憩時間前後で総会を行います。
 - ・来年3月1日(日)に臨時練習を行います。時間は15:30～19:00です。

[冒頭へ](#)

月初の練習日に移動

2019年10月23日（水）

練習箇所

Johann Christoph Friedrich Bach
 ・Wachet auf,ruft uns die Stimme

記事

全体発声：35分

<内容>

- ★Wachet auf,ruft uns die Stimme
 - ・85～139小節の音取り、歌詞を付けて歌いました。
 - ・最後に1～139小節を通して歌いました。

備考

[冒頭へ](#)

月初の練習日に移動

2019年10月16日（水）

練習箇所

Johann Christoph Friedrich Bach
 ・Wachet auf,ruft uns die Stimme

記事

全体発声：31分

<内容>

- ★Wachet auf,ruft uns die Stimme
 - ・先週ヴォカリーゼで音取りした85小節まで復習し、言葉を付けて歌いました。
 - ・'wachet'の語尾が色々変化しているので注意しましょう。
(56小節'wach'、61小節'wache'など)

備考

 [冒頭へ](#)

月初の練習日に移動

2019年10月9日（水）

練習箇所

Johann Christoph Friedrich Bach
・ Wachtet auf, ruft uns die Stimme

記事

全体発声：37分

<内容>

★Wachtet auf, ruft uns die Stimme

・ 85小節までヴォカリーゼで音とりをしました。

備考